表はす，尤も事柄を主格においてもこれは用ひられるが，その時は passive の形になる．例へば：

It **can not be** done.

＝It is impossible to do it.

— 225 —

(*a*) He has **improved in** his English.

(*b*) The Japanese have **improved on** things Western.

〔譯　文〕

（い） 彼れは英語が上達した。

（ろ） 日本人は泰西の文物に改良を加へた。

〔解　説〕

(*a*) の "improve in" は「……が進歩する」「……が上達する」の意．

He has **improved in** his appearance.

＝彼れは風采がよくなつた．

(*b*) の "improve on" は「……に改良を加へる」の意．次の諸例を參考：

(1) We must **improve on** the method of teaching English.

＝英語の教授法を改良せねばならぬ．

(2) You can not **improve on** it.

＝此の上善くは出來ない，

(3) This is an **improvement on** your last.

＝此の前のより善く出來てゐる．

— 226 —

(*a*) **Have** earthquakes any **influence on** the weather?

(*b*) He **has** great **influence over** the people.

(*c*) Ho **has influence with** the Ministers.

〔譯　文〕

（い） 地震は天候に影響するものですか。

（ろ） 氏は民間に勢力がある。

（は） 彼は大臣連に信用がある。

〔解　説〕

(*a*) の "influence" は「感應力」「影響」「感化」の意で，"have influence on" となつて，主語が「……に影響を與へる」「……に感化を及ぼす」「……を左右する」の意となる．

Your conduct **has influence on** the others.

＝君の行爲は他の人に影響を及ぼす＝君のする事を他が見習ふ．

(*b*) の "influence" は「勢力」「威光」「羽振り」の意で，"have influence over……" と熟して「……に對して勢力がある」「……に對して羽振りが利く」の意．前置詞に注意．

The Japanese parent **exercises** great **influence over** their children.

＝日本では子に對する親の威光が強い．

(*c*) の "influence" は「信用」又は「傳手」の意．"have influence with" は "have credit with" と同樣「……の信用がある」の意．「傳手」の場合の例は：

He has risen through the **influence** of his uncle.
ー彼は伯父の傳手で立身した.

— 227 —

(*a*) I **inquired of** him *about* the matter.
(*b*) I wrote to him to **inquire after** him.
(*c*) We shall **inquire into** the matter.
(*d*) I **inquired for** him, but found him away.

〔譯　文〕

(い) 私はその件に就て彼に尋ねた。
(ろ) 私は手紙で彼の安否を尋ねた。
(は) その事件を調査致しませう。
(に) 彼を訪ねたが不在だつた。

〔解　説〕

(*a*) の "inquire of....." は「.....に尋ねる」「.....に問ふ」の意. 之には概して後へ "about"; "if"; "whether"; "what" などが伴ふ.

(*b*) の "inquire after....." は人の「安否を問ふ」, 病氣の「見舞をする」, 商賣などの「繁昌如何を問ふ」意に用ひられる.

I visited Ito to **inquire after** his health.
ー病氣見舞の爲め伊藤を訪れた.

(*c*) の "inquire into....." は「調査する」「審査する」「取調べる」の意.

(*d*) の "inquire for" は "ask for" と同樣人の在不在を「尋れる」の意.

— 228 —

(*a*) I gave him advice **instead of** money.
(*b*) **Instead of** working, he idles away his time.

〔譯　文〕

(い) 金の代りに忠告を彼に與へた。
(ろ) 働かずに彼は遊んで日を暮らしてゐる。

〔解　説〕

"instead of" さあると諸君は一も二もなく「.....の代りに」と譯す癖があるが, (*a*) の樣な場合ならばそれもよいが, (*b*) の樣な場合は, さう譯してはおかしい.「.....せずして」と譯さればならぬ. つまり "without" と同樣に譯せばよいのである.

— 229 —

(*a*) I **intend to** go abroad this year.
(*b*) I **expect to** succeed this time.

〔譯　文〕

(い) 私は今年洋行する積りでゐる。
(ろ) 私は今度は及第すると思つてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "intend to" も (*b*) の "expect to" も共に「.....する積り」の意だが, 前者には意志動詞が伴ひ, 後者には無意志

動詞が伴ふ事に注意を要する。"think" を用ひて二文を書換へろとかうなる。

(*a*) *I think I will* go abroad this year.

(*b*) *I think I shall* succeed this time.

— 230 —

(*a*) He **takes** 〔**an**〕 **interest in** educational matters.

(*b*) Japan **has an interest in** China's welfare.

〔譯　文〕

（い） 彼は教育上の事に興味を持つてゐる。

（ろ） 日本は支那の公安に利害關係がある。

〔解　說〕

(*a*) の "interest" は「興味」「趣味」の意で，"take 〔an〕 interest in" となつて「……に興味を持つ」，「……に篤志がある」の意となる。それから轉じて「……の世話をするのが好き」の意にも用ひられる。

My uncle **takes** 〔**an**〕 **interest** in students.

＝叔父は學生の世話が好きです。

(*b*) の "interest" は「利害關係」「權利」などの意。"have interest in" と熟して「……に利害關係がある」の意となる。

You **have an interest in** this business.

＝君は此の事業に利害關係がある ＝ 株主。

— 231 —

(*a*) I have no right to **interfere in** the matter.

(*b*) Pleasure must not **interfere with** business.

〔譯　文〕

（い） 僕は此の件に就て容喙する權利がない。

（ろ） 遊びが勤めの妨げになつてはならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "interfere in" は「……に喙を容れる」「干涉する」の意。他の語に換へれば "meddle in"; "poke one's nose into."

(*b*) の樣に "interfere with" になると「……を妨げる」「……の邪魔をする」「……と衝突する」などの意となる。他の語に換へれば "disturb"; "conflict with" である。"interference" と名詞になつた場合も夫々前置詞を異にする。

— 232 —

(*a*) The rain stopped for a while and I began washing **in the interval.**

(*b*) It rained **at intervals.**

〔譯　文〕

（い） 雨が一寸間歇んだので、その間に私は洗濯を始めた。

（ろ） 雨が時々降つた。

〔解　説〕

(*a*) の "in the interval" は「その間」の意。

(*b*) の "at intervals" は「折々」「時々」「間をおいて」の意で。"at times" と同義。「長く間をおいて」卽ち「たまに」なら "at long intervals"; 「短く間をおいて」卽ち「頻繁に」なら "at short (brief) intervals" である。 尙次例を參考。

(1) The tram-cars start **at intervals of** ten minutes.
—電車は十分おきに出る。

(2) The trees are planted **at intervals of** six feet.
—一間おきに樹が植えてある。

〔K〕

— 233 —

(*a*) He manages to **keep in with** everybody.
(*b*) We must **keep up with** the times.

〔譯　文〕

（い） 彼は誰とでも〔喧嘩せずに〕仲よくやつて行く。

（ろ） 吾々は時代に後れぬ樣にせねばならぬ。

〔解　説〕

(*a*) の "keep in with" は「……と折合つて行く」「……と仲善くして行く」の意。 類句に "to fall in with" がある。

(*b*) の "keep up with" は「……に後れずに附いて行く」の意。 他の語に換へれば "keep pace with"; "follow" などが當る。

(1) I can not **keep up with** you.
—〔君は速くて〕迚も附いて行かれない。

(2) He can not **keep up with** his class.
—彼は〔覺えが惡く〕組に附いて行けない。

(3) The supply can not **keep up with** the demand.
—供給が需要に應じ兼ねる。

— 234 —

(*a*) They are all **of a kind.**
(*b*) He is a genius **of a kind.**

〔譯　文〕

（い） 彼等は皆同類である。
（ろ） 彼は天才といへば天才だ。

〔解　説〕

(*a*) の "of a kind" は "of *the same* kind" と同意. 元來 "a" には "the same" の意がある. 例へば:

(1) Birds *of a feather* flock together.
=同じ翼の鳥は共に集る=類は類を以て集まる.

(2) Two *of a trade* seldom agree.
=同商賣は兎角仲がこい.

(*b*) の "of a kind" は「一種の」の意. 他の語に書換へれば "something like"; "in a manner" である. 今 (*b*) を書換へれば:

He is *something like* a genius.
=He is a genius *in a manner.*

— 235 —

(*a*) He **takes** a joke **kindly.**
(*b*) The boy seems to **take kindly to** his books.

〔譯　文〕

（い） 彼は惡口を好意に取る = 惡口を云はれても怒らぬ。
（ろ） その子供は學問が好きらしい。

〔解　説〕

(*a*) の "kindly" は「好意を以て」「惡しからず」の意. "take" は「解釋する」「見做す」の意で, "take.....kindly" で「.....を善意に取る」從つて「.....に腹を立てぬ」の意になる.

(*b*) の "kindly" は "gladly" と同意で「悅んで」「自ら進んで」の意. "take to" は「.....に從事する」の意で, "take to.....kindly" となると「.....を好む」の意となる.

— 236 —

(*a*) I **know** him quite well, for he is my old friend.
(*b*) I don't **know of** any such man.

〔譯　文〕

（い） 私はその人をよく知つてゐる、だつて私の舊友ですもの。
（ろ） そんな人がゐることは私は知りません。

〔解　説〕

(*a*) の "know" は云ふ迄もなく「知る」で, "I know him" と云へば「彼は私の知合」の意味であるが.

(*b*) の様に "know of" となると,「……の有るを知る」又は「噂に聞いて知つてゐる」の意である. 尙次例を參考:

(1) Do you **know of** any good servant?
=好い女中の心當りはありませんか.

(2) If I had **known of** such a book, I would have bought it.
=そんな好い本があると知つたら買ふのだつたに.

要するに "know of" は "know that there is……" の意味である. (*a*), (*b*) の差を一目瞭然たらしめんには次の例を比較するがよい.

I **know of** him, but I do not **know** him personally.
=その人は噂には聞いてゐるが, 直接には知らない.

— 237 —

(*a*) I **know** him **better** than you do.
(*b*) I **know better** than to do such a thing.

〔譯　文〕

(い) 君よりも私の方が彼を知つてゐる。
(ろ) そんな馬鹿な事はしない。

〔解　說〕

(*a*) の "know better" は單に "know well" を比較級にした丈けで何でもないが.

(*b*) の "know better" は少々說明を要する. 一體物を知る事は, "wise" になる事である. 即ち "I know" = "I am

wise" である. ところが "I know *better*" は如何であらう何でもない. "I am wiser" といふ事である. 然らば (*b*) の "I *know better* than to do such a thing" は, つまり "I *am wiser* than to do such a thing" 即ち「私はそんな事をするよりも利巧である」「そんな事をするほどの馬鹿ぢやない」の意味になる. だから (*b*) を分り易く書けば,

I am *not so foolish as* to do such a thing.
=I am *too wise to* do such a thing.

〔L〕

— 238 —

(*a*) He **labours for** the good of the public.

(*b*) He **labours under** a defect of speech.

〔譯　文〕

(い) 彼は常に公益を圖る。

(ろ) 彼は訥辯で困つてゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "labour" は「盡力する」「努力する」の意で，"labour for" となれば「……の爲めに盡力する」「……を圖る」の意.

(*b*) の "labour" は「苦しむ」「惱む」の意. "under" を伴つて「……の爲めに苦しむ」「……で困る」の意となる. "under" は「苦惱」の原因を示す. 次例を參考:

He **labours under** a stange mistake.

＝彼は妙な誤解をしてゐる.

— 239 —

(*a*) The culprit is still **at large.**

(*b*) It will interest people **at large.**

(*c*) He scatters imputations **at large.**

(*d*) He described it **at large.**

(*e*) He is doing business **in large.**

〔譯　文〕

(い) 犯人は未だ縛に就かない。

(ろ) それは一般の人に興味があらう。

(は) 彼は當てもなく人の惡口を云ひ散らす。

(に) 彼はそれを精しく述べた。

(ほ) 彼は手廣く商賣をしてゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "at large" は "arrested" (捕まつた) の反對で「捕まらぬ」「縛に就かぬ」の意の Adjective Phrase で，他の語に換へれば "free; at liberty" である.

(*b*) の "at large" は「一般の」の意で，"in general" と同じ.

(*c*) の "at large" は「當てもなく」「出鱈目に」「矢鱈に」の意の Adverbial Phrase で，"at random" といふのと同じ.

(*d*) の "at large" は "at length" と同じく，「精しく」「十分に」の意.

(*e*) の "in large" は「大規模に」の意で，反對は "in little" 他の語に換へれば，"on a large scale"; "in a large way" である.

— 240 —

(*a*) He came up to Tokyo **last month.**

(*b*) He died in **the last month** of the year.

〔譯　文〕

(い) 彼は先月東京へ出て來ました。

(ろ) 彼はその年の十二月失くなりました。

〔解　説〕

(*a*) "last" が,「此の前の」とか,「先月」の「先」,「昨日」の「昨」の意の時は定冠詞がない事に注意を要する. *last* year (昨年); *last* week (先週); *last* night (昨夜); *last* Sunday (此の前の日曜) など皆さうである. 併し

(*b*)「最初」の "the first" に對し「最後の」の意味に用ひる時は, "the last....." と定冠詞が伴ふのである. (*b*) の "the last month" は「最後の月」だからつまり「十二月」である.

— 241 —

(*a*) He was **the last** [man] **to** come.
(*b*) He is **the last** man **to** tell a lie.
(*c*) This is a matter of **the last** importance.

〔譯　文〕

(い) 彼は一番終ひにやつて來た。
(ろ) 彼は嘘言を吐く樣な人間でない。
(は) これは最も重要な問題である。

〔解　説〕

(*a*) の "the last [man] to come" は "the last man that came" としたのと同じで,「來たところの最後の人」「一番終りに來た人」の意である. 之を副詞に書換へれば, "He came *last*." である.「いの一番に來た」は, "He was *the first* [man] to come" である.

(*b*) の "the last man" の "last" は「最後の」の樣に順序を示すのでなく,「尤も.....しさうでない」の意を表はす形容詞

である. (*b*) を書改めるとかうなる: "He is *least likely to* tell a lie." 尙次例を參考.

This is **the last** place where I expected to have met you.
=此處で君に會はうとは思はなかつた.

(*c*) の "the last" は "the greatest"; "the utmost" と同じく「最上の」「至極の」の意. ひよつとすると, "a matter of the last importance" を「最後の重要なる」だからつまり「どうでもよい事」などと誤解せぬ樣注意を要する.

— 242 —

(*a*) He became a priest **in his late year.**
(*b*) The art of flying has made remarkable development **of late years.**

〔譯　文〕

(い) 彼は晩年になつて佛門に入つた。
(ろ) 飛行術は近年著しく發達した。

〔解　説〕

(*a*) "in one's late years" は「〜の晩年に」の意.

(*b*) の "of late years" は "in recent years" と同じく「近年」「近頃」の意. (*a*) の "late" は「後の」「晩き」の意であるに反し, (*b*) の "late" は「此頃の」「近來の」「昨今の」の意.

— 243 —

(*a*) He **lays out** all his money **on** books.
(*b*) I **lay out** to make a journey next month.

〔譯　文〕

（い） 彼は金を皆書籍に使ふ。
（ろ） 僕は來月旅行をする積りだ。

〔解　說〕

(*a*) の "lay out" は "spend" と同じく金を「……に使ふ」，資本を「……に投ずる」に當る．

He **laid out** much money *in* stocks.
＝彼は澤山の金を出して株を買つた．

(*b*) の "lay out" は「……する積り」「……の計畫」の意で，他の語に換へれば "intend" である．

— 244 —

(*a*) I must **learn how to** swim.
(*b*) You will **learn to** love him.

〔譯　文〕

（い） 私は泳ぎ方を習はなければならぬ。
（ろ） 君は段々彼を愛する樣にならう。

〔解　說〕

(*a*) の "learn how to……" は「如何にして……すべきかを學ぶ」卽ち「……の方法を學ぶ」の意．此の意味の時は不定法の前に "how" を入れるのが普通である．尤も "learn to" と用ひぬ事もないけれど．

(*b*) の "learn to……" は "come to……" と同じく「(段々)……する樣になる」の意．而して "learn to be……" は "become" に相當する．例へば：

Learn to be a good reader.
＝*Become* a good reader.
＝讀書家になれ．

— 245 —

(*a*) He has **not the least** knowledge of English.
(*b*) He has **not a little** knowledge of English.

〔譯　文〕

（い） 彼は英語の知識が少しもない。
（ろ） 彼は少なからざる英語の知識がある。

〔解　說〕

(*a*) の "not the least" は "not any" 卽ち "no" と同意だから，(*a*) は「英語に就ての知識を少しも持たぬ」「英語を少しも知らぬ」の意である．

(*b*) の "not a little" は "a little" を "not" で打消すのだから，「少くない」「少なからざる」で，譯は「英語に就ての少からざる知識を持つてゐる」「英語を非常によく知つてゐる」の意となる．初學者は動もすれば，"not" を "has" に附けて譯し，「英語の知識を少しも持つてゐない」などと譯すかも知れぬから注意を要する．

— 246 —

(*a*) You may have a week's holiday **at least.**

(*b*) He was **not in the least** injured.

〔譯　文〕

（い） 君は少くも一週間休暇を取つてもよい。

（ろ） 彼は少しも怪我をしなかつた。

〔解　説〕

(*a*) の "at least" は又 "at the [very] least" とも云ひ，「少くも」の意である．これは亦「兎に角」「何にしろ」「せめて」などと譯す方がよく當る事もある．

(1) I will do my duty **at least.**
　＝兎に角自分のやるべき事はやるつもり．

(2) You will pay me the travelling expenses **at least.**
　＝せめて旅費丈けでも出して下さい．

(*b*) の "in the least" は否定語が伴つて「少しも……ない」の意で，"not at all" と同じ．

— 247 —

(*a*) The car was crowded and I had to **keep on my legs** all the way.

(*b*) You are old enough to **stand on your own legs.**

〔譯　文〕

（い） 電車が込んでずつと立ち詰めであつた。

（ろ） お前はもう獨立しても宜い年頃だ。

〔解　説〕

(*a*) の "keep on ～'s legs" は "keep standing" と同じく「立ち通しである」の意であるが．

(*b*) の "stand on ～'s own legs" は抽象的の意で「一本立ちになる」「獨立する」の意で，書換へれば "to be independent" である．"legs" の代りに "feet" を用ひてもよい．

— 248 —

(*a*) Come and see me when you are **at leisure.**

(*b*) You may do the work **at your leisure.**

〔譯　文〕

（い） 御暇の折御遊びに御出で下さい。

（ろ） ゆつくりその仕事をやるがよい。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) at leisure" は「閑がある」「手隙の」意で，他の云ひ方を用ひれば，"have time to spare" である．つまり "Are you at leisure?" は，"Have you time to spare?" といふのと同じである．此の句はまた不定法を伴つて次の樣にも用ひられる．

Are you **at leisure to** go out?

=Have you time to go out?

=外出する閑がありますか

(*b*) の "at ～'s leisure" は「緩つくり」の意．(*a*) と混同して「閑の時に」と誤譯せぬ樣注意．"at ～'s leisure" を一語の副詞で表はせば "leisurely" である．また次の樣な phrase を用ひて同じ意を表はす事が出來る．

You may *take your time* in doing it.

=それをゆつくりやつてよい．

— 249 —

(*a*) We have **at length** arrived at our destination.

(*b*) He explained the matter **at length.**

(*c*) He stretched himself **at full length.**

〔譯　文〕

（い） 吾々は到頭目的地に着いた。

（ろ） 彼はその事を委しく說明した。

（は） 彼は大の字に横はつた。

〔解　説〕

(*a*) の "at length" は "at last" と同じく「到頭」「遂に」の意である事は云ふ迄もあるまい．

(*b*) の "at length" は "in detail" と同樣，「委しく」「詳細に」又は「長々と」の意．「詳しい」といふ事を "lengthy" で表はす事も記憶され度い．尙ほ，この句は "at *some* length"; "at *great* length" の樣に形容詞を伴ふ事もある．

(*c*) の "at full length" は「身體を十分伸ばして」の意，從つて「大の字なりに」に當る．尙次例を參考：

I had my photograph taken **at full length.**

=私は全身の寫眞を撮つた．

— 250 —

(*a*) This money will **go a great length** towards the object.

(*b*) And, indeed, he did **go to great lengths.**

〔譯　文〕

（い） これ丈けの金があれば、その目的の大分足しになる。

（ろ） して又實際彼は隨分極端な事をした。

〔解　説〕

(*a*) の "go a great length" は "go a long way" と同樣「餘程足しになる」の意で，此の時の "length" は「程度」「度合」を意味する．

(*b*) の "go to great lengths" は「極端な事をやる」で，他の phrase に直せば "go to extremes" である．此の意味の "length" に就ては次の云ひ方を参考され度し．

(1) I will not **go the length of** asserting that he is mad.

=彼を狂人と斷定しようなどいふ了見はない．

(2) He **went the length of** pawning his cooking utensils.

=彼は臺所道具迄も質に入れた．

— 251 —

(*a*) Mr. Kobuku has **no less than** seven children.

(*b*) He has **not less than** a million yen.

〔譯　文〕

（い） 子福君は子供が七人もある。

（ろ） 彼の財産は少くも百万(或はそれ以上)。

〔解　說〕

(*a*) の "no less than" は "as many (much) as" と同意で，「……ほど澤山」「……ほども」の意．

He has *no less than* two million yen.

=He has *as much as* two million yen.

=氏は二百萬圓も持つてゐる．

(*b*) の "not less than" は「……より以下でない」「少くも……(或はそれ以上)」の意．(*b*) の例を書換へれば：

He has *a million yen or more.*

上例の (*a*) (*b*) は共に形容詞として用ひられた例であるが，副詞の場合も同じである．

She is **no less** beautiful **than** her sister.

=She is *quite as* beautiful *as* her sister.

=彼の女は姉同樣緻緻好し．

She is **not less** beautiful **than** her sister.

=She is *perhaps more* beautiful *than* her sister.

=彼の女は姉に勝るとも劣らぬ緻緻好し．

— 252 —

(*a*) **Let** him do as he pleases.

(*b*) **Make** him do it whether he will or not.

〔譯　文〕

（い） 好きな樣にさせておけ。

（ろ） 否でも應でも彼にそれをさせろ。

〔解　說〕

(*a*) の "let" も (*b*) の "make" も共に邦語では「させる」と譯すが，前者は「禁ぜずに……させる」意，後者は「强ひて……させる」意で，「放任」と「强制」の差がある．他の動詞に換へれば (*a*) は "allow" 又は "cause" (*b*) は "induce"; "compel" である．上例 (*a*), (*b*) を共に他の動詞を以て云表はせば：

(*a*) *Allow* him *to* do as he pleases.

(*b*) *Compel* him *to* do it whether he will or not.

【注意】"let" の次には不定法の "to" を省いた所謂 Root-infinitive が伴ふ事に注意.

— 253 —

(*a*) People are **liable to** think so.
(*b*) We are **liable to** pay taxes.

〔譯　文〕

(い) 世間の人は兎角さう考へ勝ちである。
(ろ) 吾々は租税を納める義務がある。

〔解　說〕

(*a*) の "(be) liable to" は「……し勝ち」「……し易い」の意で，他の語に換へれば "(be) apt to" である．此の語の次には名詞も伴ひ得る．例へば：

We are **liable to** *this error.*
＝吾々は兎角かうした誤りに陷り易い．

(*b*) の "(be) liable to" は「……すべき義務がある」の意で，"liable" の次に名詞が伴へば前置詞 "for" が必要である．

You are **liable** *for* the debt.
＝君はその債務を拂ふ責任がある．

— 254 —

(*a*) I **take the liberty** of addressing you.
(*b*) We must not **take liberties with** this rule.

〔譯　文〕

(い) 失禮を顧みず一書を呈す。
(ろ) 吾々は勝手に此の規則を變更してはならぬ。

〔解　說〕

(*a*), (*b*) の "liberty" は「自由」「自由の權」から轉じて「勝手」「失禮」の意である．此の意味では多く複數形で用ひられる．これが，"to take the liberty to……"; "take the liberty of ~ing" と熟して「失禮にも……する」の意となる．此の句に名詞が伴へば前置詞として "with" が附く．(*b*) は「規則に對して勝手な事をする」で，つまり「勝手に變更する」の意である．尙次例を參考：

(1) Don't **take liberties with** a woman.
＝女に戯れてはならぬ．

(2) He **took liberties with** my reputation.
＝彼は私の事を讒謗した．

— 255 —

(*a*) He was a Buddhist **in life.**
(*b*) I own nothing **in life.**
(*c*) It is difficult to get a chance **in life.**

〔譯　文〕

(い) 彼は存命中は佛教信者であつた。
(ろ) 彼は財産は皆無です。
(は) 出世の機會を得るのは困難である。

〔解　説〕

(*a*) の "in life" の "life" は「生命」の意で，"in life" で "while living" 卽ち「生きてゐる間」の意である．併し

(*b*), (*c*) の "life" は「人生」の意で．それが "in life" となつて，(*b*) の場合では打消を强める爲めに "on earth" と同意に用ひられ，(*c*) の場合では「人生に於て」の普通の意に用ひられるのである．(*b*) の場合の "nothing in life" は "not ing *at all*" と同意である．

— 256 —

(*a*) The picture was painted **from the life.**

(*b*) The picture is painted **to the life.**

〔譯　文〕

（い） 此の繪は寫生畫である。

（ろ） 此の繪は眞に迫つてゐる。

〔解　説〕

(*a*), (*b*) 共に "life" は轉じて「實物」「正體」の意に用ひられ，(*a*) は「實物から描かれた」卽ち「實物を寫生した」の意で，(*b*) は描かれた繪が「實物の樣である」卽ち「眞に迫つてゐる」の意．尙次例を參考：

This is a picture of Mr. A *as large as life.*

＝これはAさんの實物大の寫眞です．

— 257 —

(*a*) You should **listen to** the counsel of your elders.

(*b*) I **listened for** his answer.

〔譯　文〕

（い） 長上の忠告には耳を傾くべきものだ。

（ろ） 私は彼の返答を〔耳をすまして〕待つた。

〔解　説〕

(*a*) の "listen to" は「……に耳を傾ける」「……を傾聽する」「謹聽する」意．これは亦轉じて「容れる」「應ずる」「承諾する」意にも用ひられる．例へば

I can't **listen to** your proposal.

＝私は君の提議に應ずることは出來ぬ．

(*b*) の "listen for" は "wait for" の變化で「……を耳を澄まして待つ」の意．次例を參考：

(1) I **listened for** the clock to strike.

＝今時計が鳴るか鳴るかと待つてゐた．

(2) I **listened for** a footstep.

＝足音がするかするかと待つてゐた．

— 258 —

(*a*) He was happy **as long as** he lived.

(*b*) You shall want for nothing **so long** as I live.

〔譯　文〕

（い）　彼は生きてゐる間幸福であつた。

（ろ）　私が生きてゐる限りはお前に不自由はさせぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "as long as" は「……の間は」で，書換へれば "while" であるが，

(*b*) の "so long as" は「……である以上は」「……である限りは」「……でありさへすれば」の意で書換へれば "if only" である．從つて "so long as I live" は「私が生きてゐる以上は」「私の眼の黑い中は」位に譯せばよい．尙次例を參考：

Any book will do, **so long as** it is interesting.

＝面白くありさへすればどんな本でもよい．

— 259 —

(*a*) Just **look at** the picture.

(*b*) What are you **looking for**?

(*c*) He **looked upon** the picture with wonder.

(*d*) Let each man **look to** his own interests.

〔譯　文〕

（い）　一寸此の繪を御覽なさい。

（ろ）　君は何を探して居るのだ。

（は）　彼は驚歎してその繪を眺めた。

（に）　人各々自己の利益を圖るべし。

〔解　說〕

(*a*) の "look at" は「心に留めて見る」「打眺める」の意で，"see"（見える）と區別せねばならぬ．

(*b*) の "look for" は「……を探す」「搜索する」の意．これは亦轉じて「……を待つ」「……を期待する」「……を覺悟する」の意にも用ひられる．例へば：

(1) I daily **looked for** the arrival of the ship.

＝私は毎日船の着くのを待つてゐた．

(2) I did not **look for** such a success.

＝こんなにうまく行かうとは豫期しなかつた．

(*c*) の "look upon (on)" は "look at" の變化で，同じく物を眺めるのでも，或る感情を交へて眺める時は "loot at" が變つて "look upon (on)" となるのである．

(*d*) の "look to" は「（打捨ておかず）注意して見る」「手當をする」「注意して取扱ふ」から一身の利益などを「圖る」意に用ひられる．"attend to" を參考されたし．

— 260 —

(*a*) They are **a lot of** beggars.

(*b*) There are **a lot of** books.

〔譯　文〕

（い）　彼等は乞食仲間だ。

（ろ）　本が澤山ある。

〔解　說〕

(*a*) の "a lot of" は「……の仲間」「……連」の意であるが，

(*b*) の "a lot of" は「澤山」「ごつさり」「山ほど」の意．こ

れは更に "lots of" の形も取り取る。この方は一層意味が強い。他の語に書換へれば "plenty of" である。

He has **lots of** money.

=He has *penty of* money.

=彼は金がどつさりある。

〔 M 〕

— 261 —

(*a*) This **is made of** wood.
(*b*) Wine **is made from** rice.

〔譯　文〕

（い） これは木で出來てゐる。

（ろ） 酒は米で作る。

〔解　說〕

(*a*), (*b*) の "(is) made of", "(is) made from" は共に「…を材料として造る」の意であるが，材料と製品との間に物質的變化の生ずる場合には (*b*) を，生ぜざる場合には (*a*) を用ひるのである。例へば「机は木で造る」の場合は，材料である木と，出來上つた机との間には何等變化を認めないが，「酒は米で作る」の場合は，出來上つた酒の中にはもう材料としての「米」の形體を留めないのである。故に "(is) made *from*" を用ひる。

— 262 —

(*a*) I shall soon be **my own master.**
(*b*) I tried to be **master of myself.**

〔譯　文〕

（い） 私は間もなく自由の身になれませう。

（ろ） 私は己に克たうと努力した。

〔解　説〕

(*a*) の "my own master" は「自分の主人」卽ち「自分で自分を自由にする」で．結局「束縛のない自由の身」の意．他語に換へれば "be free" である．

(*b*) の "master of myself" は「自己を抑制する」で「己に克つ」の意．他語に換へれば，"to control oneself" である．

— 263 —

(*a*) He **may well** be proud of his son.
(*b*) You **may as well** begin at once.

〔譯　文〕

（い） 彼は息子の自慢をするのも無理はない。
（ろ） 君は早速始めた方がよからう。

〔解　説〕

(*a*) の "may well" は「……するも無理はない」「尤もだ」の意で，他の phrase に換へれば，"have good reason to....." である．(*a*) を之を用ひて云換へれば：

He *has good reason to* be proud of his son.

尙 "may well" は次の樣にも用ひられる．

He is proud of his son, and **well** he **may**.

(*b*) の "may as well" は "had better" と同意で，「……した方がよい」の意．他に例を示せば：

One **may as well** not know a thing at all **as** know it but imperfectly.

＝不充分に知るよりは一層知らぬ方が勝し．

— 264 —

(*a*) The tailor has been here to **take my measure.**
(*b*) We must **take measures** for preventing the disease.

〔譯　文〕

（い） 洋服屋が私の寸法をとりに來ました。
（ろ） 此の病氣の豫防策を講じなければならぬ。

〔解　説〕

(*a*) の "measure" は「寸法」の意で，"take～'s measure" は「寸法をとる」の意．

(*b*) の "measure" は「處置」「方法」「手段」「方策」の意で，多く複數として用ひられる．で "take measures" となると「處置をとる」「策を講ずる」で，書換へれば "take steps" である．

— 265 —

(*a*) Do not **meddle in** the affairs of others.
(*b*) I do not **meddle with** such affairs.

〔譯　文〕

（い） 他人の事に要らぬ世話を燒くな。
（ろ） 私はそんな事に用はない。

〔解　説〕

(*a*) の "meddle in" は "interfere in" と同じで「干渉する」「容喙する」「餘計な世話を燒く」の意.

(*b*) の "meddle with" は "have to do with" と同じで,「……に手を出す」「……に關係する」「……に與かる」の意.

Students should not **meddle with** politics.

＝學生は政治に手を出すべきでない.

此の "meddle with" は亦「いぢる」「いたづらする」の意にも用ひられる. 他の語に換へれば "tamper with"; "monkey with" である.

You must not **meddle with** fire.

＝火をいたづらしてはいけない.

— 266 —

(*a*) They erected a monument **in memory of** the war.

(*b*) They erected a monument **to the memory of** the late M. A.

〔譯　文〕

(い) 彼等は戰爭の記念に碑を建てた。

(ろ) 彼等は故 M. A. 氏の靈を祀る爲めに碑を建てた。

〔解　説〕

(*a*) の "memory" は「記念」の意で, "in memory of" と熟して「……の記念に」「……を記念する爲めに」の意である. 類句に "in commemoration of" といふのがある.

(*b*) の "memory" は「(死者の) 遺名, 靈」の意で, "to the memory of" で「……の靈を祀る爲め」の意となる. これは略して單に "to erect a monument to Mr. A" の樣にも用ひられる. 尙次例を參考:

She remained faithful **to the memory of** her husband.

＝彼女は亡夫に對して操を立て通した.

— 267 —

(*a*) Everything is **in a mess.**

(*b*) They are **at mess.**

〔譯　文〕

(い) 萬事が大いに混亂してゐる。

(ろ) 彼等は會食中である。

〔解　説〕

(*a*) の "mess" は「混雜」「混亂」の意. "(be) in a mess" と熟して「混雜してゐる」の意となる. 他の phrase に換へれば "(be) in disorder" である. 此の句は亦「困つてゐる」の意にも用ひられる. 尙 "to make a mess of it" (下手をやる, 味噌をつける) といふ句も同時に記憶され度し.

(*b*) の "mess" は軍艦などの共同會計より,「會食」の意に用ひられ, "(be) at mess" で「會食中」の意となる.

— 268 —

(*a*) He is **out of his mind.**

(*b*) He is **out of mind.**

〔譯　文〕

（い）　彼は氣が觸れてゐる。

（ろ）　彼は〔人に〕忘れられてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) out of one's mind" は "unsound in mind" と同意で「精神に異常がある」「氣が觸れてゐる」の意. 此の "mind" は「精神」の意である. 尙ほ "lose one's mind"; "go out of one's mind" は共に「發狂する」意. 併し

(*b*) の "mind" は「記憶」の意で. "(be) out of mind" は「……に忘れられる」の意. 次例を參考:

Out of sight, **out of mind.**

＝去る者日々に疎し.

— 269 —

(*a*) I **have** a good teacher **in mind.**
(*b*) You must **keep** this **in mind.**

〔譯　文〕

（い）　私は良い教師の心當りがある。

（ろ）　君は此の事を記憶して居らねばならぬ。

〔解　説〕

(*a*) の "have……in mind" は「……の心當りがある」で, 書換へれば "know of……" である.

(*b*) の "keep… in mind" は "*bear* in mind" と同じく「……を心に留める」「記憶しておく」「心がける」の意. 簡單に云へば "remember" である.

— 270 —

(*a*) He is a good man **to my mind.**
(*b*) I cannot find a man **to my mind.**

〔譯　文〕

（い）　私の意見では彼は善人である。

（ろ）　思ひ通りの人が見當らない。

〔解　説〕

(*a*) の "to my mind" は "*in* my mind" としてもよく, "in my opinion"; "to my thinking" と同意で,「私の意見では」「私の考へるところでは」の意, 併し同じ形でも (*b*) の "to my mind" は "to my taste" と同意で,「私の趣味に叶つた」「私の思ひ通りの」「私の氣に入つた」の意である. 次例を參考:

I cannot have anything done **to my mind** (=to my satisfaction).

＝何をさせても氣に入らぬ.

— 271 —

(*a*) The storm **did mischief to** the crops.
(*b*) They are ready to **make mischief.**

〔譯　文〕

（い）　暴風が作物に害を與へた。

（ろ）　彼等は兎角不和の種を蒔きたがる。

〔解　説〕

(*a*) の "do mischief" は "do harm" と同じく「害する」の意.

(*b*) の "make mischief" は「不和の種をまく」「離間策を施す」の意で, 書換へれば "create discord" である.

尙 "mischief" には「惡戯」「わるさ」の意味がある. 次例を參考:

The boy is **bent on mischief.**

＝その子は惡戯ばかりしてゐる.

— 272 —

(*a*) I took the wrong train **by mistake.**
(*b*) He fell into a river **by accident.**

〔譯　文〕

(い) 私は誤つて汽車を乘り違へた。

(ろ) 彼は過つて河に落ちた。

〔解　説〕

(*a*) の "by mistake" は「……すべきを間違つて～する」の樣に「誤解」を示すのであるが, (*b*) の "by accident" は同じく「過つて」でも「怪我」を示すのである. これを一語の副詞に換へれば "accidentally" である. 此の二つは和文英譯の際に往々誤まられる phrase であるから注意を要する. 假りに "He fell into a river *by mistake*" としたら如何であらう. これでは「海か池かへ落ちるべきを誤つて河へ落ちた」といふ意味になつて滑稽である.

— 273 —

(*a*) He may come **at any moment.**
(*b*) He may come **at any time.**

〔譯　文〕

(い) 彼はいつ何時來るかも知れぬ。

(ろ) 彼は何時でも〔好きな時に〕來てよい。

〔解　説〕

(*a*) の "at any moment" は「いつ何時」「今にも」の意であり, 亦 "may" は此の場合「かも知れぬ」の意であるが,

(*b*) の "at any time" は「何時でも」「勝手の時に」の意で, "may" は今度は「……でもよろしい」で許可の意を表はす. "at any time" の次に "he likes" がある心持である.

— 274 —

(*a*) This is the question **of the moment.**
(*b*) This is a matter **of moment.**

〔譯　文〕

(い) これは刻下の問題である。

(ろ) これは重大事件である。

〔解　説〕

(*a*) の "of the moment" は "of the day"; "of the hour" などと同じく「現下の」「刻下の」「差迫れる」などの意の形容句である. 參考:

The solution of the problem is the burning need *of the day*

＝此の問題の解決は刻下の急務である。

(*b*) の "of moment" は "of importance" 卽ち "important" と同じく「重大な」意の形容句である。"of moment" を一語の形容詞にすれば "momentous" である。參考:

I hold the matter **of no moment.**

＝それは些々たる問題であると思ふ。

— 275 —

(*a*) He has **no more than** ten yen.
(*b*) He has **not more than** ten yen.

〔譯　文〕

(い) 彼は僅か十圓しか持つてゐない。

(ろ) 彼は精々十圓位しか持つてゐない。

〔解　說〕

(*a*) の "no more than" は "only" の意で，"no more than 10 yen" といへば，「十圓」あるのは確かだが，その金額を僅かと見た場合であるが。

(*b*) の "not more than" は "only about" の意で，「十圓」は確實な金額でなく「凡そ十圓」「多くても十圓，或はそれ以下」の意である。

— 276 —

(*a*) I am **no more mad than** you are.
(*b*) I am **not more** mad **than** you are.

〔譯　文〕

(い) 僕は君と同樣發狂してはゐない。

(ろ) 僕も發狂してはゐるが君ほどではない。

〔解　說〕

(*a*) の "no more.....than" はある事を否定する爲めに，更に他の事を例に擧げる場合に用ひられるのである。(*a*) を換へれば:

I am *as little* mad *as* you are.

となる。英語では，"I am not mad as you are" と云へないから，それでかうして妙な云ひ方を用ひるのである。

(*b*) の "not more.....than" 「.....以上に.....ではない」「.....ほど.....ではない」の意で，書換へれば:

I am *not so* mad *as* you are.

— 277 —

(*a*) You must **make the most of** your money.
(*b*) I **made the best of** my little leisure.

〔譯　文〕

(い) お前は金を生かして使はねばならぬ。

(ろ) 私は僅かの餘暇を出來る丈利用した。

〔解　說〕

(*a*) の "make the most of" は「出來る丈け利用する」の意。

(*b*) は (*a*) と略々同意であるが，この方は元來餘りよくない物

を極力利用するの意である。從つて此の句は「仕方がないと諦める」の意にも用ひられる。亦 (*a*), (*b*) を一緒にして "to make the most and the best of....." の樣にも用ひられる。尙次例を參考:

(1) Let us **make the most** of our time.
　＝出來る丈け面白い事をして遊ばう。

(2) He **made the most of** his life.
　＝彼は人生の快事を盡した。

〔N〕

— 278 —

(*a*) I have a friend who is **in** great **need.**
(*b*) A friend **in need** is a friend indeed.

〔譯　文〕

(い) 私には困窮してゐる友人がある。
(ろ) まさかの時の友は眞の友。

〔解　說〕

(*a*) の "need" は「貧困」「困窮」「窮迫」の意で, "to be in need" と熟して「(金に) 困つてゐる」の意.

(*b*) の "need" は「危急」「危機」「まさかの時」の意で, "in need" は "in time (case) of need"; "in the hour of need" と同じく「まさかの時の」「いざ鎌倉といふ時の」の意.

— 279 —

(*a*) It **must needs** be so.
(*b*) A man **needs must** lie down when he sleeps.

〔譯　文〕

(い) どうしてもさうに相違ない。
(ろ) 眠る時はどうしても横にならなければならぬ。

〔解　　説〕

(*a*), (*b*) の "needs" は共に副詞であるが，(*a*) の "must needs" は結局 "must" を強めたもので，"must necessarily" と同意で推測を示す．

(*b*) の "needs must" は "can not but" と同じく「……せざるを得ぬ」の意．尙次例を參考：

He **must needs** come to see me.

＝He *insists on* coming to see me.

＝どうしても面會に來るといつて承知しない．

— 280 —

(*a*) He is **not a** scholar.
(*b*) He is no **scholar.**

〔譯　　文〕

（い） 彼は學者ではない。

（ろ） 彼は學者でもなんでもない。

〔解　　説〕

(*a*) の "not a……" は「……でない」と單なる否定を示すに止まるが，

(*b*) の "no……" は「決して……でない」の如く強い打消を示す．卽ち "no scholar" は "*not* a scholar *at all*" の意である．一體名詞に附ける "no" は「無」の意味であるが，斯樣な場合に限つて「非」の意味に用ひられるのである．

但し「存在」を示す場合は，以上と反對で，"not a……" の方が "no……" よりも意味が強くなる．例へば：

He *has* **no** children.

＝彼には子供がない．

He *has* **not a** child.

＝彼には子供が一人もない．

— 281 —

(*a*) I must **make notes of** my lecture.
(*b*) I **took notes of** his lecture.
(*c*) We must **take note of** this fact.

〔譯　　文〕

（い） 私は講義の草稿を作らねばならぬ。

（ろ） 私は彼の講義を筆記した。

（は） 吾々は此の事實に注目せねばならぬ。

〔解　　説〕

(*a*) の "make notes of……" は「(講義，演說などの) 草稿を作る」意．"make *a note* of" と單數になると「(人の云つた事) を書付ける，書留める」の意となる．

(*b*) の "take notes of" は「(講義，講演などを) 筆記する」の意．

(*c*) の "note" は (*a*), (*b*) のそれとは異り「注意」「注目」の意で，"take note of" と熟して「……注意を拂ふ」「……に留意する」の意となる．

— 282 —

(*a*) He **makes nothing of** hardship.
(*b*) I **can make nothing of** this passage.

〔譯　文〕

（い）　彼は艱難辛苦などは何とも思はぬ。

（ろ）　此處の意味がどうも分らない。

〔解　說〕

(*a*) の "make nothing of" は「……を事ともせぬ」「……を何とも思はぬ」「……を屁とも思はぬ」で他の phrase に換へれば，"make no account of" である．この句は亦「……する事を躊躇せぬ」「平氣で……をする」の意にも用ひられる．他の phrase に換へれば "make no scruple of" である．例へば：

He **makes nothing of** lying and stealing.

＝彼は嘘を吐いたり盜みをするのは平氣．

(*b*) の "can make nothing of" は "can make no sense of" と同じく「……がさつぱり分らぬ」の意．類句に，"can make neither head nor tail of" といふのがある．

— 283 —

(*a*) Learning is **nothing to** genius.
(*b*) A hundred yen is **nothing to** him.
(*c*) That is **nothing to** you.

〔譯　文〕

（い）　學問は天才に劣る。

（ろ）　百圓の金は彼の人にとつては何でもない。

（は）　それはお前の知つた事ではない。

〔解　說〕

(*a*) の "(is) nothing to" は「……に比ぶれば無に等し」「……とは比べものにならぬ」卽ち "nothing *as compared* with" である．

(*b* の "(is) nothing to" は "of no consequence to" で「……にとつてもどうでもよいもの」「語るに足らぬもの」の意．

(*c*) の "(is) nothing to you" は "no business of yours" で，「お前の知つた事ぢやない」の意．

— 284 —

(*a*) He is **nothing of a** scholar.
(*b*) He has **nothing of the** scholar **in him.**

〔譯　文〕

（い）　彼は少しも學者ではない。

（ろ）　彼は少しも學者肌でない。

〔解　說〕

(*a*) の "nothing of a scholar" は "no scholar" と同意で，"not a scholar" を强めたもの．

(*b*) の "nothing of the scholar" の "the scholar" は「學者」でなく「學者肌」「學者の素質」の意．"in him" は「彼の素質の中に」の意．參考：

(1) He is *something of a* poet.
＝彼は少しは詩も作る．

(2) He has *something of the* poet in him.
＝彼には多少詩人肌のところがある．

〔O〕

— 285 —

(*a*) The meeting is held **on occasion.**
(*b*) He was absent **on the occasion.**

〔譯　文〕

(い) その會は折に觸れて開かれる。
(ろ) 彼はその時缺席した。

〔解　說〕

(*a*) の "on occasion" は「時々」「折にふれて」の意の副詞句で，一語で示せは "occasionally" である．

(*b*) の "on the occasion" は "then" と同じで「その時」「その際」の意．

— 286 —

(*a*) I **had occasion to** reprove him.
(*b*) You may **have occasion to** make a speech.

〔譯　文〕

(い) 彼に小言を云つた事がある。
(ろ) 演說をせねばならぬかも知れぬ。

〔解　說〕

(*a*) の " occasion" は「機會」「場合」の意で，"have occasion to" と熟して「……する事がある」の意となる．

(*b*) の "occasion" は 轉じて「必要」の意となり，"have occasion to" と熟して「……せねばならぬ」の意となる．"occasion" には亦「理由」の意もある．參考：

(1) There is no **occasion** to get angry.
=何も怒るにはあたらぬ．

(2) There is no **occasion** for haste.
=何も急ぐに及ばぬ．

(3) I have **occasion** for money.
=私は金が入用だ．

— 287 —

(*a*) The motion is not **in order.**
(*b*) The room is **in** good **order.**
(*c*) He is **in orders.**

〔譯　文〕

(い) 此の動議は〔議會の〕定例に背く。
(ろ) 此の室はよく整頓してゐる。
(は) 彼は僧職に就いてゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "order" は「定例」「慣例」「制度」の意である．次例を參考：

(1) A new **order** of things has come in.
＝新制度が行はれて來た.

(2) This is the **order** of the world.
＝これが浮世の習ひだ.

(*b*) の "order" は「整頓」「整理」の意で, "to be in [good] order" と熟して「整頓してゐる」の意. 反對は "be out of order."

(*c*) の "orders" は常に複數形で,「僧職」の意. "holy" なる形容詞が伴ふ事もある. 尙ほ "to take orders" (僧になる) といふ phrase も記憶しおくこと.

— 288 —

(*a*) He has some property **of his own.**
(*b*) He has a talent **all his own.**

〔譯　文〕

(い) 彼には自分の財産が多少ある。
(ろ) 彼には獨特の才がある。

〔解　說〕

(*a*) の "of his own" は「他人のでなく, 自分の」の意.

(*b*) の "all his own" は「彼獨特の」の意で他の phrase に換へれば "peculiar to him" である. 尙次例を參考:

This book has a value **all its own.**
＝此の本は獨特の價値がある.

— 289 —

(*a*) Begin it **at once.**
(*b*) He is **at once** wise and learned.
(*c*) She began to cry **all at once.**

〔譯　文〕

(い) 早速それを始めなさい。
(ろ) 彼は利巧であり亦學問もある。
(は) 彼女は突然泣き出した。

〔解　說〕

(*a*) の "at once" は "inmediately" と同意で「早速」「直ちに」の意.

(*b*) の "at once" は「同時に」「一時に」から轉じて「.....であると共に亦.....である」の意に用ひられる. "at once" が "at a time" の意に用ひられる例を擧げれば:

You must not all speak **at once.**
＝皆一時に喋べつてはいかん.

(*c*) の "all at once" は "all on a sudden" と同じく「突然」「俄かに」の意.

〔 P 〕

— 290 —

(*a*) I **have a pain** in the stomach.
(*b*) I **took** much **pains** with my work.

〔譯　文〕

(い) 私は胃が痛い。
(ろ) 私は此の仕事には大分骨を折つた。

〔解　説〕

(*a*) の "pain" は「痛み」であるが，これが (*b*) の樣に "pains" と複數になると，「苦心」「骨折」「丹精」の意となり，"to take pains" と熟して「骨を折る」「苦心する」「努力する」の意となる．次例を比較：

He is **in pain.**
＝彼は苦しんでゐる．
He is **at pains.**
＝彼は苦心してゐる．

— 291 —

(*a*) **On paper,** he is the better man.
(*b*) He is **on a paper.**

〔譯　文〕

(い) 資格から云へば彼の方が上だ。
(ろ) 彼は新聞記者である。

〔解　説〕

(*a*) の "on paper" は「理論上」「紙上」の意で，「實際上」に對する．

(*b*) の "on a paper" の "paper" は「新聞紙」の意で，"be on a paper" は "be on the editorial staff of a newspaper" の意．

— 292 —

(*a*) I **parted from** him at Osaka.
(*b*) I can't **part with** him.

〔譯　文〕

(い) 私は大阪で彼に別れた。
(ろ) 彼を手放す譯には行かぬ。

〔解　説〕

(*a*) の "part from" は「人と別れる」の意であるが，

(*b*) の "part with" は「(惜しい物又は人を) 手放す，讓る」の意である．前置詞の具合で意味が一寸變つて來る．

I can't **part with** this dictionary.
＝此の辭書は惜しくて手放せない．

— 293 —

(*a*) The two countries are **at peace** with each other.
(*b*) You may die **in peace.**

〔譯　文〕

（い）　兩國は互ひに平和である。

（ろ）　君は安心して死ねる。

〔解　說〕

(*a*) の "peace" は「平和」の意で，"(be) at peace" は「平和の狀態に（ある）」の意．で "(be) at war" の反對．尙ほ "to make peace with....."「...と和睦する」も記憶され度し．

(*b*) の "peace" は「(個人の) 安心」の意で "in peace" は "peacefully" と同樣「安らかに」「安心して」の意．

— 294 —

(*a*) **Pick out** the best of all these things.
(*b*) I **picked** it **up** on my way here.

〔譯　文〕

（い）　此の中から一番よいのを選びなさい。

（ろ）　私は此處へ來る途中でそれを拾つた。

〔解　說〕

(*a*) の pick out" は "choose"; "select" と同じく「擇り拔く」意であるが，亦 "pick out" には "understand" の意もある．

I can **pick out** the meaning of this passage.
＝此處の意味がどうかかうか分る．

(*b*) の "pick up" は「拾ふ」意である．尙ほ次例を參考：

(1) He **picked up** a langauge.
＝彼は言葉を拾ひ覺えに覺えた．

(2) He **picked up** information.
＝風說を聞き集めた．

— 295 —

(*a*) The needle **points to** the north.
(*b*) People **point at** him.

〔譯　文〕

（い）　磁針は北を指す。

（ろ）　世人は彼に後ろ指を指す。

〔解　說〕

(*a*) の "point to" は「指す」の意，これは亦 "as" を伴うて「～を.....と見做す」意にも用ひられる．例へば：

Everybody **points to** him **as** the culprit.
＝萬人が彼を犯罪者と見做してゐる．

(*b*) の "point at" は「後ろ指をさす」又は「狙ふ」意．

— 296 —

(*a*) The matter is under investigation **at present.**
(*b*) This sum will do **for the present.**

〔譯　文〕

（い）　その事件は目下取調中。

（ろ）　是丈けの金があれば當分間に合ふ。

〔解　說〕

(*a*) の "at present" は "now" と同意で，「目下」「今」の意.

(*b*) の "for the present" は「當分」「差當り」「今のところ」などの意で，類句に "for the time being"; "for the nonce" がある.

— 297 —

(*a*) He **pretends to** know everything.

(*b*) He **pretends** to understand Shakespeare.

〔譯　文〕

（い）　彼は何でも知つてゐる振をする。

（ろ）　彼はあれでも沙翁の物が分る積りでゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "pretend to" は「……の振りをする」「裝ふ」の意で他の語に換へれば，"make believe" である.

(*b*) の "pretend to" は "presume" と同じく「大膽にも…する」「よくも……する」「……の積りでゐる」などの意.

— 298 —

(*a*) Our army **prevailed over** (or **against**) the enemy in number.

(*b*) I can not **prevail upon** him to undertake the work.

〔譯　文〕

（い）　我軍は兵數に於て敵に優つてゐた。

（ろ）　私は仕事を引受ける樣彼を說得することが出來ない。

〔解　說〕

(*a*) の "prevail over (against)" は「……よりも優も」「…より優勢を占める」の意.

(*b*) の "prevail upon" は「……を說得する」で不定法を伴ひ多く否定として用ひられる.

— 299 —

(*a*) I will buy it **at any price.**

(*b*) We must win the day **at any price.**

〔譯　文〕

（い）　幾ら出しても私はそれを買ふ。

（ろ）　如何なる犧牲を拂つても勝たねばならぬ。

〔解　説〕

(*a*) の "at any price" は "however dear" と同じで「いくら高價でも」の意である.

(*b*) の "at any price" は轉じて「如何なる犧牲を拂つても」の意で, "at any cost"; "at any sacrifice" と同じである. 尙次例を參考:

She saved her child **at the price of** her own life.

—一身を犧牲にして子供を救つた.

— 300 —

(*a*) I shall **proceed to** business at once.
(*b*) He **proceeded upon** his principle.
(*c*) Let us **proceed with** the matter in hand.

〔譯　文〕

(い) 早速仕事に取掛ります。
(ろ) 彼は彼の主義を實行した。
(は) 本件を續けてやりませう。

〔解　説〕

(*a*) の "proceed to" は「……へ赴く」意から「に取りかゝる」の意になり, "go to work" に書換へる事が出來る.

(*b*) の "proceed upon" は "act upon" と同じく「則る」「據る」の意,

(*c*) の "proceed with" は "go on with" と同意で,「(一旦止めた事を) 續行する」の意.

— 301 —

(*a*) They differ **in profession.**
(*a*) He is a lover at heart, if not **in profession.**

〔譯　文〕

(い) 彼等は夫々職業を異にする。
(ろ) 口には出さねど心では惚れてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "profession" は「職業」の意であるが.

(*b*) の は「公言」「表白」の意である. "profession" を「職業」とばかり思つてゐると飛んだ誤譯をするから注意を要する. "profess" なる動詞は心にある事を「口に出す」意である事を思へばよく分る.

— 302 —

(*a*) I **promised to** go with him.
(*b*) The weather **promises to** be fine.

〔譯　文〕

(い) 私は彼と一所に行く約束をした。
(ろ) 天氣は晴れさうである。

〔解　説〕

(*a*) の "promise" は「約束する」の意であるが.

(*b*) の "promise" は無意志主格に伴つて「……の見込があ

る」「……らしい」「……しさう」の意を示す．他の phrase で書換へれば "likely to……" である．例へば：

This boy **promises** to become a great man.

=This boy *is likely to* become a great man.

=此の兒は豪くなりさうだ．

此の "promise" の反對は "threaten" で次の樣に用ひる．

It *threatens* to rain.

=雨が降りさうだ．

— 303 —

(*a*) We must **provide for** the future.

(*b*) We must **provide against** the time of need.

〔譯　文〕

(い) 吾々は將來の用意をしておかねばならぬ。

(ろ) 吾々は万一の時の同意をしておかねばならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "provide for" は單に「……の用意をする」「……を圖る」の意である．尤もこれには他に「養ふ」とか「法律で規定する」などの意味もある．例へば：

He has a large family to **provide for.**

=彼は大勢の家族を養はればならぬ．

(*b*) の "provide against" は同じく「用意する」であるが，「萬一の爲めに備へる」「豫防する」の意がある．一寸の相異である丈けに混用される事が往々ある．

— 304 —

(*a*) He went to England **for the purpose of** studying English.

(*b*) His explanation is very much **to the** purpose.

〔譯　文〕

(い) 氏は英語研究の爲め渡英した。

(ろ) 彼の說明は頗る要領を得てゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "for the purpose of" は "in order to"; "with the object of" と同じく「……を目的に」「……する爲めに」と目的を示す．

(*b*) の "purpose" は「要領」「趣意」の意で，"(is) to the purpose" と熟して「要領を得てゐる」「痒い所へ手が届く樣」の意となる．類句は "to the point" である．

— 305 —

(*a*) His answer was **nothing to the purpose.**

(*b*) I laboured **to no purpose.**

〔譯　文〕

(い) 彼の返事は不得要領であつた。

(ろ) 私は働いた甲斐がなかつた。

〔解　説〕

(*a*) の "nothing to the purpose" は前問の "to the purpose" の反對で「不得要領」の意である。"nothing to the point" が此の類句.

(*b*) の "purpose" は「效果」の意で, "to no purpose" と熟して「徒らに」「空しく」の意となる. 他の phrase に換へれば "in vain" である. 尙次例を參考:

We must live **to some purpose.**

=We must *not* live *in vain.*

=生き甲斐ある樣にせねばならぬ.

— 306 —

(*a*) He **picked a quarrel** with a workman.

(*b*) He is ready to **take up a quarrel.**

(*c*) Let us **make up a quarrel.**

〔譯　文〕

(い) 彼は職工と喧嘩を始めた。

(ろ) 彼は兎角喧嘩を買ひたがる。

(は) 喧嘩の仲直りをしようぢやないか。

〔解　説〕

(*a*) の "pick a quarrel" は「喧嘩を仕かける」の意.

(*b*) の "take up a quarrel" は「他人の喧嘩を自分が引受ける」卽ち「喧嘩を買ふ」の意.

(*c*) の "make up a quarrel" は「喧嘩の仲直りをやる」の意. 三つ共一寸似てゐるから誤譯せぬ樣注意を要する.

— 307 —

(*a*) I once **quarreled with** him.

(*b*) Don't **quarrel with** Providence.

〔譯　文〕

(い) 僕はいつか彼と喧嘩した事がある。

(ろ) 天を恨む勿れ。

〔解　説〕

(*a*) の "quarrel with" は普通の「……と喧嘩する」の意であるが.

(*b*) のは "find fault with" と同じく「……を非難する」「……を咎める」「苦情をいふ」「恨む」などの意である. "Providence" は「神」の意,「神樣と喧嘩する」などと誤譯せぬ樣注意を要する. 尙次の諺を記憶され度し.

(1) The cunning workman does not **quarrel with** his tool.

=名工は道具に難癖をつけない—能書は筆を擇ばず.

(2) Do not **quarrel with** your bread and butter.

=生業を恥づる勿れ.

— 308 —

(*a*) His success is **out of the question.**

(*b*) His success is **beyond question.**

〔譯　文〕

（い） 彼の成功は思ひもよらぬ。

（ろ） 彼の成功は疑ひなし。

〔解　説〕

(*a*) の "out of the question" は「問題外」「問題にならぬ」「思ひもよらぬ」などの意である.

(*b*) の "beyond question" の "question" は「疑義」「不審」の意で, "beyond question" と熟して「疑ひなし」「勿論のこと」の意となる. "beyond" の代りに "without"; "beside" "past" を用ひても同じこと.

〔R〕

— 309 —

(*a*) I **reached** the town in the evening.
(*b*) The field **reaches to** the sea.

〔譯　文〕

（い） 私は夕方その町に着いた。

（ろ） 野原が海岸まで廣がつてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "reach" は他動詞で「届く」「達する」の意で, 勿論 "at"; "in" などの前置詞は不要. "arrive" は自動詞だから "arrive *at* (*is*)" と前置詞が必要. ところが,

(*b*) の "reach" は自動詞の場合で, 此の時は「……まで廣がる」「……に及ぶ」「……に亘る」の意である. 尙 "reach" が自動詞として用ひられる場合の例は:

(1) The boy **reached at** a flower.
　＝少年は花を取らうとして手を伸ばした.

(2) The pickpocket **reached for** the watch of a fellow-passenger.
　＝その掏摸は相客の時計を取らうとして手を伸ばした.

— 310 —

(*a*) There is no flower **within my reach.**
(*b*) The book is **within the reach of** students.

〔譯　文〕

（い）　その花は私の手の届く所にある。

（ろ）　その本は學生にも讀める（又は買へる）。

〔解　說〕

(*a*) の "reach" は名詞で，「（手の届く）範圍」の意，從つて "within one's reach" となると「手の届く範圍に（ある）」「手を伸ばせば取れる處に（ある）」の意．此の反對は "out of one's reach" である．次例を參考：

The hotsprings are **within easy reach of** the railway.

＝溫泉場は汽車から下りて容易に行ける所にある．

(*b*) の "reach" は (*a*) の意味から轉じて「……の手に入れられる」「……に求め得る」，更に轉じて「……の力に及ぶ」，本の場合ならば「了解し得る」の意になる．此の反對は "beyond one's reach" である．卽ち：

Such extravagance is **beyond my reach.**

＝そんな贅澤は及びもない．

— 311 —

(*a*) I am **ready to** start.
(*b*) I am **ready to** undertake any work.
(*c*) The boat is **ready to** sink.

〔譯　文〕

（い）　私は出發の用意が出來てゐる。

（ろ）　どんな仕事でも悅んで引受けます。

（は）　船が今にも沈みさうだ。

〔解　說〕

(*a*) の "(am) ready to" は「……する用意が出來てゐる」の意に過ぎないが．

(*b*) の "(am) ready to" は「悅んで……する」「何時でも……する」「……することを辭せぬ」「……する覺悟でゐる」などの意．次例を參考：

I am **ready to** die for your sake.

＝貴方の爲めなら死も辭せぬ．

此の "ready" に "too" が伴ふと餘りよい意味には用ひられない．卽ち

(1) He is **too ready to** talk.

＝彼の男は餘り喋りたがる．

(2) He is **too ready to** make promises.

＝彼の男は兎角安請合をする．

(*c*) の "(is) ready to" は「今にも……しさう」の意である．

She is **ready to** cry.

＝彼女は今にも泣きさう．

— 312 —

(*a*) I am **ready for** the examination.
(*b*) He is **ready at** repartee.

〔譯　文〕

（い）　私は試驗を受ける準備が出來てゐる。

（ろ）　彼は卽答が旨い——當意卽妙の才がある。

〔解　説〕

(*a*) の "ready for" は前問 (*a*) の "ready" と同じで，次に名詞が來るから "for" に變つたまでであるが，

(*b*) の "(is) ready at" は "good (clever) at" と同じく「……が上手」「……が旨い」の意である．

— 313 —

(*a*) Please **recommend** me **to some** firm.
(*b*) Honesty will **recommend** any one **to** his employer.

〔譯　文〕

（い） 何卒私を何處かの會社へ推薦して下さい。
（ろ） 正直にさへすれば誰でも主人に好かれる。

〔解　説〕

(*a*) の "recommend" は普通の「推薦する」「推擧する」の意であるが，

(*b*) のは，無意志主格に伴つて，それが「(誰の) 氣に入らせる」「取柄となる」の意である．即ち "recommend oneself to another by one's honesty" といへば「正直によつて自分を他人に好かれしめる」「正直にして他人に好かれる」といふ意味である．(*b*) を此の形に書換へれば：

Any one may *recommend himself* to his employer *by* his honesty.

尙次例を參考：

He has nothing **to recommend** him.
＝彼には何一つ取柄がない．

— 314 —

(*a*) I am **reconciled with** him.
(*b*) I am **reconciled to** my loss.

〔譯　文〕

（い） 私は彼と仲直りをした。
（ろ） 損は仕方がないと諦めてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "reconcile" は「仲直りをさせる」「和解せしめる」の意の他動詞．それが "be reconciled with" となると「……と仲直りをしてゐる」「……と和解してゐる」の意となる．

(*b*) の "reconcile" は轉じて「(天命と) 諦めさせる」の意．從つて "reconcile oneself to……" とすれば「……に對して自己を諦めさせる」即ち「……を諦める」の意となる．本問はそれが passive の形になつてゐる丈けである．

(*b*) を書換へれば：

I *have reconciled myself to* my loss.

— 315 —

(*a*) He did such things without **reflecting on** the consequences.
(*b*) Your conduct will **reflect on** your family.

〔譯　文〕

（い）彼は前後の考へなくそんな事をした。

（ろ）そんな事をすると家名を汚す。

〔解　說〕

(*a*) の "reflect on" は「思ひ返す」「反省する」の意。

(*b*) の "reflect on" は「(行ひなどが) ……の體面を汚す」の意。他の phrase に換へれば "bring discredit on"; "disgrace" などである。

— 316 —

(*a*) We must **have regard to** appearance.

(*b*) We must **have a regard for** the laws.

〔譯　文〕

（い）吾々は世間體を構はなければならぬ。

（ろ）吾々は國法を重んじなければならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "regard" は「注意」「顧慮」「頓着」の意で，"have (*or* pay) regard to" と熟して「……を顧慮する」「……を構ふ」「……に頓着する」の意となる。

He acts *without* **regard** to decency.

＝彼は體裁を構はずに振舞ふ。

(*b*) の "regard" は「敬意」「尊敬」「尊重」の意で，"have

a regard for" となつて，「……を重んずる」「……を尊重する」の意である。

(1) I **have a regard for** him.

＝私は氏を敬慕してゐる。

(2) I **have a high regard for** his opinion.

＝彼の一言を千金の價があると思ふ。

(3) They **have no regard for** truth.

＝彼は眞實を重んじない。

— 317 —

(*a*) All the nation **rejoiced at** the news of victory.

(*b*) He **rejoices in** his wealth.

〔譯　文〕

（い）勝報を耳にして全國民が悅んだ。

（ろ）彼には財產がある。

〔解　說〕

(*a*) の "rejoice at" は「……を聞いて（見て）悅ぶ」の意であるが，

(*b*) の "rejoice in" は單に「……である」「……がある」といふ意に過ぎない。

He **rejoices in** his youth.

＝He *is* young.

＝彼は若い。

— 318 —

(*a*) It **has relation to** the matter in hand.
(*b*) I should like to **have relations with** him.

〔譯　文〕

（い） それは本件と關係がある。
（ろ） 私は彼の人と交際したいものだ。

〔解　說〕

(*a*) の "relation" は「關係」の意で，"have relation to' と熟して「……と關係がある」の意．

(*b*) の "relations" は複數の形で「交際」「間柄」の意で，"have relations with" と熟して「……と交際する」の意となる．尙次例を參考：

Japan has **come into intimate relations with** England.
＝日本は英國と親交を結んだ．

— 319 —

(*a*) All knowledge **rests on** experience.
(*b*) The decision **rests with** you.

〔譯　文〕

（い） すべての知識は經驗に基づく。
（ろ） 決心は君次第である。

〔解　說〕

(*a*) の "rest on" は "depend on" と同じく「……に依る」「……に基する」の意．

(*b*) の "rest with" は「……の權內にあり」「……次第」の意．

— 320 —

(*a*) There is **a room** for you.
(*b*) There is **room** for you.

〔譯　文〕

（い） お前さんの爲めに室がある。
（ろ） お前さんが入る丈けの餘地がある。

〔解　說〕

(*a*) の "a room" は普通名詞で「室」の意であるが．

(*b*) の "room" は抽象名詞で「場席」「空席」「餘地」の意．冠詞なきに注意．他の語に換へれば "space" である．次例を參考：

(1) There is plenty of **room** in the new house.
＝今度の家は廣い．

(2) There is **room** for one more.
＝今一人丈け這入れる．

— 321 —

(*a*) He who **runs after** two hares will catch neither.
(*b*) He is much **run after.**
(*c*) I will **run for** the doctor.

〔譯　文〕

(い) 二兎を追ふ者は一兎を獲ず。
(ろ) 彼は仲々賣れつ兒だ。
(は) 一と走り醫者を迎へに行つて來よう。

〔解　說〕

(*a*) の "run after" は「……を追ひかける」の意．それが．(*b*) の樣に "be run after" と受身になると「追ひかけられる」から轉じて「求められる」「需要がある」，つまり人の場合ならば「引つ張り凧」とか「賣れつ子」の意に用ひられる．他の phrase に換へれば "be sought after" である．

(*c*) の "run for" は "go for"（迎へに行く）の變化で「走つて迎へに行く」の意．

〔S〕

— 322 —

(*a*) He saved a child **at the sacrifice of** his life.
(*b*) We must sell even **at a sacrifice.**

〔譯　文〕

(い) 彼は一命を犧牲にして子供を救つた。
(ろ) 損をしても賣つて了はねばならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "sacrifice" は「犧牲」の意で，"at the sacrifice of" と熟して「……を犧牲にして」の意．他の phrase に換へれば "at the cost (expense) of" である．

(*b*) の "sacrifice" は「捨賣」「見切賣」「損耗」の意で，"at a sacrifice" は "at a loss" と同じく「損をして」の意．尙「見切賣」を "sacrifice sale" といふ事も記憶され度し．

— 323 —

(*a*) The boat **set a sail.**
(*b*) The boat **set sail for** America.

〔譯　文〕

(い) その船は帆を掛けた。
(ろ) その船は米國へ向けて出帆した。

〔解　説〕

(*a*) の "set a sail" は單に「帆を掛ける」の意.

(*b*) の "set sail" は「出帆する」の意. これは亦 "make sail" とも云ふ. 冠詞の有無によつて意味が異つて來ることに注意.

— 324 —

(*a*) I have **the same** dictionary **as** you have.

(*b*) This is **the same** dictionary **that** I lost.

〔譯　文〕

(い) 僕は君のと同じ辭書を持つてゐる。

(ろ) これは僕の失くした辭書だ。

〔解　説〕

(*a*) の "the same～as....." は「.....と同じ樣な～」で同種異物を意味する. 本問は "the same dictionary as *yours*" としてもよい. 併し

(*b*) の "the same～that....." は「.....と～のが同一物」, 卽ち「失くした辭書が卽ちこれ」の意で, 同種同物の意. 本問は之を書換へて次の樣にも云へる.

This is *the same* dictionary *with* the one I lost.

— 325 —

(*a*) I **am satisfied with** the result.

(*b*) I **am satisfied of** his innocense.

〔譯　文〕

(い) 此の結果で滿足した。

(ろ) 彼が無罪な事がよく分つた。

〔解　説〕

(*a*) の "satisfy" は「滿足せしめる」の意, それが "be satisfied with" となつて「.....で滿足してゐる」の意.

(*b*) の "satisfy" は "assure" と同じく「確信せしめる」「十分に知らせる」の意で, "be satisfied of" と熟して「.....がよく分る」「.....を確信する」の意となる. (*b*) は次の樣に書換へてもよい.

I *am satisfied that* he is innocent.

— 326 —

(*a*) He is extremely frugal, **not to say** stingy.

(*b*) He knows French, **to say nothing of** his English.

〔譯　文〕

(い) 彼は非常な儉約家で吝嗇といつてもよい位。

（ろ） 英語は申すに及ばず佛語も知つてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "not to say" は「……とはいへなくとも……殆んどそれに近い」の意．他の phrase に換へれば "if not" に近い．

(*b*) の "to say nothing of" は "not to speak of" と同じく「……はいふ迄もなく」「……は勿論」などの意．本問は肯定文の場合だが，此の phrase は否定文中にも用ひられる．例へば：

He knows *no* English, *to say nothing of* French.

＝佛語は愚か英語も知らぬ．

— 327 —

(*a*) The students are now **at school.**

(*b*) He studied hard while **in school.**

〔譯　文〕

（い） 生徒は今授業中です。

（ろ） 彼は在學中熱心に勉强した。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) at school" は「授業中」「稽古中」の意であるが．

(*b*) の "(be) in school" は「在學中」の意．"at" と "in" の相異で斯樣に意味を異にすることに注意．

— 328 —

(*a*) The Waseda won the victory **by the score** of 3 to 2.

(*b*) The proposal was rejected **on the score of** absurdity.

〔譯　文〕

（い） 早稲田は三對二で勝つた。

（ろ） その提案は不合理だからといつて否決された。

〔解　説〕

(*a*) の "score" は競技の「得點」の意で「……の得點で」といふ時に "by the score of" を用ひる．尤もこれは略して "by 3 to 2" の樣にも用ひられる．

(*b*) の "score" は「理由」「譯」の意で，「……の理由で」は "on the score of" といふ．此の "score" は "ground" と同意．

— 329 —

(*a*) I **searched for** my missing purse, but I could not find it.

(*b*) I must **search into** the matter.

〔譯　文〕

（い）私は失くした財布を探したが見當らなかつた。

（ろ）私は此の事件を取調べなければならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "search for" は「……を捜す」の意で "look for" と同じ。"for" は "after" に換へてもよい。

(*b*) の "search into" は「取調べる」「穿鑿する」の意。"look into"; "inquire into" と同意。

— 330 —

(*a*) Oysters are now **in season.**

(*b*) Things will come round **in [due] season.**

(*c*) I was **in season** for the fair.

〔譯　文〕

（い）牡蠣は今が旬(しゅん)である。

（ろ）時節を待てばどうにかなる。

（は）私は博覽會に間に合つた。

〔解　說〕

(*a*) の "season" は「(何の) 節」「(何) 季」「旬 (しゅん)」の意で，"(be) is season" で「……が旬」「……の季節」の意。

(*b*) の "season" は「(相當の) 時節」の意で，"in [due]

season" は "in due course of time" と同意で「相當の時が經てば」「その中に」などの意。

(*c*) の "season" は「好時期」の意で，"(be) in season" は「折よく」の意。更に之に "for" が伴ひ，"(be) in season for" となると「(折よく)……に間に合ふ」の意。つまり "in time for" と同意である。

— 231 —

(*a*) He does everything **in secret.**

(*b*) He must be **in the secret.**

〔譯　文〕

（い）彼は何でも內證でやる。

（ろ）彼は秘密を知つてゐるに相違ない。

〔解　說〕

(*a*) の "in secret" は "openly" の反對で「內證で」「こそこそ」の意，一語の副詞に換へれば "secretly" である。

(*b*) の "(be) in the secret" は「秘密の中にある」のだから，自然「秘密を知つてゐる」の意になるのである。

— 332 —

(*a*) Please **let me see** it.

(*b*) **Let me see!**

〔譯　文〕

（い）何卒それを見せて下さい。

（ろ）はてな！——えーつと，待てよ。

〔解　　説〕

(*a*) の "see" は普通の「見る」意で，"let me see" で「私をして見せしめよ」「見せよ」の意になる事は云ふ迄もないが，

(*b*) の "see" は「考へる」意で，「私をして考へしめよ」とは「考へる暇を與へよ」で，何か聞かれて一寸つまづいた時に發する言葉である．斯樣に "see" には「考へる」意もある事を忘れてはならぬ．だからこそ "let me see" が「はてな」の意になるのである．それを鵜呑に「はてな」と覺えてゐると，(*a*) の場合にも「はてな，それは」などと誤譯をやらぬものでもない．序ながら "see" には亦「分る」の意もある．例へば："I see"（なるほど，分つた）；"You see"（ねえ，分つたらう）など．

— 333 —

(*a*) **See** the dog run after a cat.
(*b*) **See that** the baby does not get hurt.

〔譯　　文〕

（い） 犬が猫を追ひ掛けるのを見給へ。
（ろ） 赤ん坊が怪我をしない樣に賴むよ。

〔解　　説〕

(*a*) の "See" は普通の「見る」の意であるが，

(*b*) の樣に "see that" の形になると「氣を付けて見る」「監督する」「引受ける」などの意味になる．これは "see *to it* that" を略したものである．尙次例を參考：

(1) I will **see that** they do.
　＝必ずさう致させます．

(2) I will **see that** he pays you.
　＝彼に屹度金を返させます．

この邊を知らないで (*b*) を「赤ン坊が怪我をしないのを御覽なさい」などと譯したら笑止千萬である．

— 334 —

(*a*) I **sent** him **about his business.**
(*b*) I **sent** him **on business.**

〔譯　　文〕

（い） 私は彼奴を叩き出した。
（ろ） 私は彼を使ひにやつた。

〔解　　説〕

(*a*) の "send～about～'s business" は「追ひ返す」「追ひ出す」「叩き出す」の意．參考：

Begone *about your business.*
　＝さつさと失せろ！

(*b*) の "send～on business" は「～を用達にやる」の意である．因に "go on business" は「用達しに行く」の意．

— 335 —

(*a*) She is now **in** my **service.**
(*b*) The officer is **on service.**
(*c*) I shall be **at your service** in a minute.

〔譯　文〕

（い） 彼女は今私の所に奉公してゐる。

（ろ） その將校は今現役(又は出征中)である。

（は） 直きに御用を伺ひます。

〔解　說〕

(*a*) の "(be) in one's service" は「……に事へてゐる」「……の所に奉公してゐる」の意で,反對は "(be) out of one's service" である.

(*b*) の "(be) on service" は「現役にある」又は「出征中」の意. 但し "service" に "active" が伴ふと前置詞が變つて "(be) *in* active service" となる.

(*c*) の "(be) at one's service" は「……の用をたす」「……の役に立つ」の意. 參考:

I will **place** my library **at your service.**

=私の藏書を御使ひ下さい.

— 336 —

(*a*) He **set up as** a physician in the town.

(*b*) He **sets up for** a scholar.

〔譯　文〕

（い） 彼はその町で醫師を開業した。

（ろ） 彼は學者を以て任じてゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "set up as" は "establish oneself as" と同じく「商賣などを始める」「開業する」の意.

(*b*) の "set up for" は「……を以て任ずる」「……ぶる」「……を氣どる」などの意で, 他の語に換へれば, "to pose as" である.

— 337 —

(*a*) The mercury stands at 90° **in the shade.**

(*b*) We rested **under the shade** of a tree.

〔譯　文〕

（い） 寒暖計は日蔭で九十度だ。

（ろ） 吾々は樹の蔭で休んだ。

〔解　說〕

(*a*) の "in the shade" は "in the sun" (日向で) に對して「日蔭で」の意. ところが

(*b*) の樣に「樹の蔭で」といふ時は "in" が "under" に變つて "*under* the shade of……" となることに注意.

— 338 —

(*a*) It is hot here. Let's **go into the shade.**

(*b*) He **went down into the shades.**

〔譯　文〕

（い） 此處は暑い, 日蔭へ行きませう。

（ろ） 彼は黃泉の客となつた。

〔解　説〕

(*a*) の "go into the shade" は「日蔭の所へ行く」の意．此の際 "into" を用ひる事に注意．

(*b*) の "shades" は複數形で，「冥土」「黄泉」の意．"go down into the shades" で「黄泉の客となる」「死ぬ」の意．「黄泉」に相當するものに他に "the Hades" がある．"go to the Hades" の樣に用ひられる．

— 339 —

(*a*) I **shot** a bird.
(*b*) I **shot at** a bird.

〔譯　文〕

（い） 私は鳥を一羽射とめた。
（ろ） 私は鳥を狙つて射つた。

〔解　説〕

(*a*) の "shot" は「射殺す」「しとめる」の意だが．

(*b*) の "shot at" は「……を狙つて撃つ」で必ずしも「殺す」の意ではない．當る時もある，當らぬ時もある．

— 340 —

(*a*) My child is **sick of** a fever.
(*b*) I am **sick of** life.
(*c*) I am **sick for** a sight of home.

〔譯　文〕

（い） 私の子供は熱病に罹つてゐる。
（ろ） 私は熟々浮世が厭やになつた。
（は） 私は故郷が戀しい。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) sick of" は "(be) ill with"; "(be) suffering from" と同じく「……に罹つてゐる」「……を病らつてゐる」の意である．それが

(*b*) では轉じて「飽き果てる」「しみじみ厭やになる」の意になるのである．だから "(be) sick of life" と云へば「浮世がいやになる」「死にたくなる」の意となる．

(*c*) の "(be) sick for" は「……に焦れる」「……に憧がれる」「……が戀しい」の意で，他の phrase に換へれば "yearn after"; "pine after" などである．

— 341 —

(*a*) The ship was soon **out of sight.**
(*b*) The dinner was **out of sight.**

〔譯　文〕

（い） その船は直ぐに見えなくなつた。
（ろ） 御馳走は素的であつた。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) out of sight" は "(be) in sight" の反對で「見えない」の意．參考：

(1) A ship **came in sight.**
=船が見えて來た.
(2) The apparision passed **out of sight.**
=幽靈が見えなくなつた.

(*b*) の "(be) out of sight" は轉じて「比類なし」の意. 他の phrase に換へれば "beyond comparison" である.

— 342 —

(*a*) I got up **so** early **that** I was in time for the first train.
(*b*) I got up early, [**so**] **that I might** be in time for the first train.

〔譯　文〕

(い) 早く起きたから一番汽車に間に合つた。
(ろ) 一番汽車に間に合ふ樣に早起きした。

〔解　說〕

(*a*) の "so.....that" は「(餘り.....) だから.....」と通例「結果」を表はす. 次例を參考:

I forgot everything, I was **so** happy.
=I was **so** happy **that** I forgot everything.
=餘り嬉しいものだから何事も打忘れた.

(*b*) の "so [that] may" は無意志の「結果」から轉じて有意志の「目的」に用ひられたものである.「.....する樣に」「.....せんが爲め」の意である.

— 343 —

(*a*) I worked **so** hard **as to** pass the examination.
(*b*) I worked hard, **so as to** pass the examination.

〔譯　文〕

(い) 熱心に勉强したから試驗に合格した。
(ろ) 試驗に合格する樣熱心に勉强した。

〔解　說〕

(*a*) の "so.....as to" は前問の "so.....that" と同じく「結果」を表はし.

(*b*) の "so as to" は前問の "so that.....may" と同じく「目的」を表はす.

尙 "as.....as to" には一種の副詞代用の用法がある. 例へば:

He was **so** kind **as to** lend me the money.
=He *kindly* lent me the money.
=彼は親切にも私に金を貸してくれた.

— 344 —

(*a*) I have **some** novels.
(*b*) I want **some** novel.

〔譯　文〕

(い) 私は小說を何冊か持つてゐる。
(ろ) 私は何か小說が欲しい。

〔解　説〕

(*a*) の "some" は 判然と數は分らぬが "five or six" 卽ち「若干」の意を示すに反し，

(*b*) の "some" は「何か……」の意味である，此の意味の "some" は單數普通名詞に伴ふものである．次例を比較：

There are **some** tea-houses.

＝茶店が二三軒ある．

Let us take a rest at **some** tea-house.

＝何處か茶店で一休みしよう．

— 345 —

(*a*) Get **somebody** to help you.
(*b*) I will be **somebody** in the world.

〔譯　文〕

（い） 誰かに手傳つて貰ひなさい。

（ろ） 一廉の人間になつてみせる。

〔解　説〕

(*a*) の "somebody" は「誰かしら」「何人か」の意味の不定代名詞であるが，

(*b*) の "somebody" は名詞で，「何の誰と云はれる人」「物の數に入る者」「世に知らるる人」「一廉の人物」の意．これは複數にも用ひられる．反對の「つまらぬ者」「物の數に入らぬ者」は "nobody" である，

— 346 —

(*a*) I must get it finished **somehow.**
(*b*) He works hard, but **somehow** he does not succeed.

〔譯　文〕

（い） 何とかしてそれを仕上げねばならぬ。

（ろ） 彼は勉强するのだが，どういふものか成功しない。

〔解　説〕

(*a*) の "somehow" は往々 "or other" を伴つて「何うかかうか」「どうやらかうやら」卽ち "by some means or other" の意であるが，これには亦

(*b*) の如く「どういふ譯か」「どうしたものか」卽ち "for some reason or other" といふ意味もある事を記憶せねばならぬ.

— 347 —

(*a*) He is always writing **something.**
(*b*) If you know English, it's **something.**

〔譯　文〕

（い） 彼は始終何かしら書いてゐる。

（ろ） 英語を知つてゐるなら、知らぬに勝しだ。

〔解　説〕

(*a*) の "something" は「(何か分らぬが) 何かしら」の意.

(*b*) の "something" は "not nothing"; "better than nothing" と同じく「無いよりは勝し」の意. 参考:

This sum of money means **something** to me.

＝これ丈の金があれば多少の足しになる.

— 348 —

(*a*)	I will go and see him **sometime.**
(*b*)	He will **sometimes** come to see me.

〔譯　文〕

(い) 何時か彼を訪問しに行かう。

(ろ) 彼は時々僕の所へやつて來る。

〔解　説〕

(*a*) の "sometime" は「何時か (將來)」の意の不定副詞で, 書換へれば "some day"; "on some future occasion" である. 尤もこれは亦「暫らく」の意にも用ひられる. 例へば:

He has been waiting [**for**] **sometime.**

＝彼はしばらく待つてゐる.

(*b*) の "sometimes" は "not always" と同じく「時としては」「時々」「往々」などの意の副詞.

— 349 —

(*a*)	You can kill me or **spare** me, as you like.
(*b*)	He **saved** a drowning child.

〔譯　文〕

(い) 私を殺すも生かすも御勝手。

(ろ) 彼は溺れんとする子供を救つた。

〔解　説〕

(*a*) の "spare" は「生命を助ける」の意だが, 同じ助けるのでも, これは「殺すべきものを殺さずにおく」「生かしておく」の意である.

(*b*) の "save" は人の命が危い場合にそれを助けてやるの意である. これは往々混同され易いから注意を要する.

— 350 —

(*a*)	He is a lad **of spirit.**
(*b*)	He is a man **of spirits.**

〔譯　文〕

(い) 彼は負けぬ氣の子供だ。

(ろ) 彼は元氣者である。

〔解　説〕

(*a*) の "spirit" は「意氣」「氣概」「氣骨」などの意で，"a man of spirit" となれば「氣骨のある人」「勝氣の人」「負けぎらひ」の意である，

(*b*) の "spirits" は概して複數で，「元氣」「血氣」氣焰」などの意．參考：

He is **in high spirits.**

＝元氣旺盛．

He is **in low spirits.**

＝元氣揚らず．

— 351 —

(*a*) The boys are playing **on the square.**
(*b*) He lives **on the square.**

〔譯　文〕

（い） 子供等は廣場で遊んでゐる。

（ろ） 彼は正業に就いてゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "square" は「辻廣場」「廣小路」の意．

(*b*) の "square" は「直角」から轉じて「直角定規」更に轉じて「定規」「標準」「手本」などの意．これが "on the square" と熟して「正直に」「地道に」卽ち "squarely" の意となる．反對は "on the cross" である．尙此の phrase は「几帳面に」卽ち "exactly" の意にも用ひられ，"on" は "by" としてもよい．例へば：

He does everything **on (by) the square.**

＝彼は物事を几帳面にやる．

— 352 —

(*a*) The house **stands** on a hill.
(*b*) The house **is** still **standing.**

〔譯　文〕

（い） その家は丘の上に在る。

（ろ） その家は今でも存在してゐる。

〔解　説〕

(*a*) の "stand" は建物などが何處其處に「在る」と所在を示す．つまり "be" の變化に過ぎない．此の意味では進行形になれない．

(*b*) の "(be) standing" は「無い」に對して「在る」の意である．丁度 "(be) dead" に對する "(be) living" の樣なものである．

— 353 —

(*a*) **Take a step** forward.
(*b*) We must **take steps** to prevent the epidemic.

〔譯　文〕

（い） 一歩前へ！

（ろ） 此の病氣の豫防策を講せねばならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "take a step" は「……歩進む」の普通の意であるが，(*b*) の "steps" は複數で，「手段」「手續」「處置」などの意，"take steps" と熟して「……(の) 處置をする」「……(の) 手續きをする」の意．此の意味の "steps" は "measures" と同じ．

— 354 —

(*a*) The boy **sticks to** nothing.
(*b*) He **sticks at** nothing.

〔譯　文〕

(い) 此の子は物事に飽きつぽい。
(ろ) 彼は何んな惡い事でも平氣でやる。

〔解　說〕

(*a*) の "stick to" は「附着する」から轉じて「執着する」の意，それが "stick to nothing" となると「何事にも執著しない」「執着性がない」卽ち「飽きつぽい」の意となる．

(*b*) の "stick at" は「躊躇する」の意で，"stick at nothing" で「何物をも躊躇せずにやる」の意．但しこれは惡い意味に用ひられ．他の phrase に換へれば "make no scruple of……" である．

— 355 —

(*a*) He is **still** living.
(*b*) He is not **yet** dead.

〔譯　文〕

(い) 彼は未だ存命してゐます。
(ろ) 彼は未だ死にません。

〔解　說〕

(*a*) の "still" も (*b*) の "yet" も共に「未だ」の意であるが，前者は「未だ……してゐる」の意であるに反し，後者は「未だ……して居らぬ」と未完の意味に用ひる．

— 356 —

(*a*) He always **tells** us **the same story.**
(*b*) They all **tell the same story.**

〔譯　文〕

(い) 彼の人は何時も同じ話ばかりする。
(ろ) 皆の話が符合してゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "tell the same story" は普通の意味に過ぎない．

(*b*) に於ては主語が複數で「皆の者が同じ事をいふ」のだから，つまり「皆の話が符節を合せる如く合つてゐる」の意である．

— 357 —

(*a*) Tell me **another story.**
(*b*) It is quite **another story** now.

〔譯　文〕

（い）　も一つお話をして下さい。

（ろ）　今はさうでない——事情一變してゐる。

〔解　說〕

(*a*) の "another story" は「も一つの話」といふだけの意だが，

(*b*) の "another story" は "different thing" といふほどの意で，事情などの一變してゐる事を述べるに用ひる．(*b*) を書換へれば：

Things are not what they used to be.

"another story" は亦 "another question" の意味卽ち「別の事」「(此處では) 無關係の事」の意にも用ひられる．例へば：

But that is **another story.**

=But that is *neither here nor there.*

=併しそれは別のこと(どうでもよい)．

— 358 —

(*a*)	He **stumbled over** a stone.
(*b*)	I **stumbled on** a curious fact.
(*c*)	He **stumbled at** such a step.

〔譯　文〕

（い）　彼は石に躓いて轉んだ。

（ろ）　私は妙な事實を偶然發見した。

（は）　彼はそれをする事を躊躇した。

〔解　說〕

(*a*) の "stumble over" は「……に躓き轉ぶ」の意であるが，

(*b*) の "stumble on" は "chance upon," "come across" などと同樣「偶然發見する」の意．"on" の代りに "upon"; "across" も用ひられる．

(*c*) の "stumble at" は "stick at"; "scruple at"; "boggle at" の類句で，「……する事を躊躇する」「二の足を踏む」の意である．

— 359 —

(*a*)	He **succeeded** me in my office.
(*b*)	He **succeeded to** my post.

〔譯　文〕

（い）　彼は私の後任になつた。

（ろ）　彼は私の職務を繼いだ。

〔解　說〕

(*a*) の "succeed" は他動詞で，「(誰々の) 後を繼ぐ」「(誰々の) 後繼者となる」で次には「人」が伴ふのであるが，

(*b*) の "succeed" は自動詞で，"to" を伴ひ意味は同じく「繼ぐ」であるが，此の方は次には「物」が續くのである．

— 360 —

(*a*)	I do not read **such books.**
(*b*)	I do not read **such a** book.

〔譯　文〕

（い）　私は斯樣な本は讀まぬ。

（ろ）　こんな本を誰が讀むものか。

〔解　說〕

元來 "such" は單一の人や物を指し乍ら單數複數何れの形をも用ひる事が出來るのであるが，單數の "such a....." は感歎の "what a....." に因んでゐるので，往々その意を異にする事がある．卽ち

(*a*) の "such books" は普通に「斯樣な本」の意であるが，(*b*) の "such a book"「何だこんな本」の如く輕蔑の意を含むものである．

— 361 —

(*a*)	I **suffered** a great loss.
(*b*)	I **suffered from** an illness.
(*c*)	You may **suffer for** it.

〔譯　文〕

（い）　私は非常な損失を蒙つた。

（ろ）　私は病氣を患つた。

（は）　そんな事をすると祟りがあるよ。

〔解　說〕

(*a*) の "suffer" は他動詞で「(損害などを) 蒙る」「(苦痛などを　感ずる」「(罰などを) 受ける」の意で換言すれば，"undergo"; "be subjected to....." である．

(*b*) の "suffer" は自動詞で，"suffer from" は「.....の爲めに苦しむ」「.....に惱まれる」の意．

(*c*) の "suffer for" は「.....の酬いを受ける」「.....の爲めに祟りがある」などの意．他の phrase に換へれば "pay dearly for" である．

— 362 —

(*a*)	This article is **superior to** that.
(*b*)	He is **superior to** bribery.

〔譯　文〕

（い）　此の品はあの品よりも優つてゐる。

（ろ）　彼の人には賄賂が利かぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "(be) superior to" は "(be) inferior to" の反對で「.....よりも勝る」の意であるが，

(*b*) のは轉じて「.....を超越してゐる」の意で，他の phrase に換へれば "(be) proof against" である．次例を參考：

(1) He is **superior to** temptation.
　=彼は誘惑に陷らぬ．

(2) He is **superior to** fortune.
　=彼は幸不幸などに感じない．

(3) He is **superior to** avarice.
　=彼は慾を離れた人．

— 363 —

(*a*) He **is sure of** success.
(*b*) He **is sure to** succed.

〔譯　文〕

（い） 彼は大丈夫成功する積りでゐる。
（ろ） 彼は大丈夫成功する。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) sure of" は「…… を大丈夫と思ふ」「……を確信する」の意で，(*a*) を書換へれば：

He *is sure that* he will succeed.

である．併し

(*b*) の "(be) sure to" は副詞代用で，「確かに……する」「間違なく……する」の意で，(*b*) を書換へれば：

He will *certainly* succeed.
=*I am sure* he *will* succeed.

— 364 —

(*a*) He was **in a sweat.**
(*b*) Don't be **in** such **a sweat.**

〔譯　文〕

（い） 彼は汗をかいてゐた。
（ろ） そんなにあせるな。

〔解　説〕

(*a*) の "sweat" は「汗」で，"(be) in a sweat" と熟して「汗をかいてゐる」の意であるが，

(*b*) の "sweat" は轉じて "impatient hurry" 卽ち「焦慮」の意．それが "(be) in a sweat" と熟して「あせつてゐる」の意となる．

〔T〕

— 365 —

(*a*) I will **teach** you **how to** swim.
(*b*) I will **teach** you **to** meddle in my affairs.

〔譯　文〕

(い) 御前に泳ぎ方を教へてやらう。
(ろ) おせつかいすると承知しないぞ。

〔解　説〕

(*a*) の "teach～how to....." の形は「～に.....の仕方を教へてやる」の意である．但し "how" は往々省かれる事もある．併し

(*b*) の "teach" は轉じて「こらしめる」の意味で "teach～to....." となつて「～が.....したらこらしめてやる」の意に用ひられる．

— 366 —

(*a*) I **can tell** by his face that he is honest.
(*b*) He is honest, **I can tell you.**

〔譯　文〕

(い) 彼の正直な事は顔で分る。
(ろ) 彼の男は正直だぜ。

〔解　説〕

(*a*) の "I can tell" は "I know" と同意で別に意味もないが，

(*b*) の "I can tell you" は "assure you" と同じく「.....だよ」「.....だぜ」「.....だわい」と念を入れて云ふ時に用ひられる．尤も "can" は省かれる事もある．

— 367 —

(*a*) I **thank** you **for** your kindness.
(*b*) I will **thank** you **for** a cup of tea.

〔譯　文〕

(い) 御親切有難う存じます。
(ろ) 何卒御茶を一杯下さい。

〔解　説〕

(*a*) の "thank～for" は「.....に對して～に感謝する」で既に人が爲してくれた事に對して謝意を述べるのであるが，

(*b*) の "I will thank you" は前以て感謝するのだから，つまり「何卒.....して下さい」といふ意味に外ならぬ．(*b*) を換へれば：

Please give me a cup of tea.
=I ask you for a cup of tea.

である．次例を參考：

I will **thank** you **to** shut the door.
=何卒戸を閉めて下さい．

— 368 —

(*a*) He **threatened to** thrash me.
(*b*) It **threatens to** rain at any moment.

〔譯　文〕

（い） 彼は私を毆るぞといつて嚇した。
（ろ） 今にも降り出しさうだ。

〔解　説〕

(*a*) の "threaten to" は「……するぞと嚇す」「……するぞと脅やかす」の意であるが，それが
(*b*) の様に無意志主格を取ると，「……する虞れがある」「……しさう」の意となる．此の反對は "promise to" である．

The practice **threatens to** become general.
＝此の慣習が世間一般になりさうだ．

— 369 —

(*a*) The step is **in time.**
(*b*) If you will only keep at it, you will succeed **in time.**
(*c*) I arrived at the station **in time for** the train.
(*d*) The train arrived **on time.**

〔譯　文〕

（い） 此の擧は時宜を得てゐる。

（ろ） 飽きずにそれをやつてゐれば何時かは成功する。
（は） 汽車に間に合ふ樣に停車場に着いた。
（に） その汽車は時間通りに着いた。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) in time" は「時宜を得てゐる」の意で反對は "out of time" である．

尙次の諺を記憶され度し．

A stitch **in time** saves nine.
＝時宜を得たる一針は九針を省く．
＝手早くすれば勞少し．

(*b*) の "(be) in time" は "in due time"; "in good time" と同じく「時節が來れば」「何時かは」「その中に」「追ひ追ひ」などの意．

(*c*) の "(be) in time" は「……に間に合ふ」の意で，反對は "(be) late for" である．

(*d*) の "on time" は "on scheduled time" としても同じで「時間表通りに」の意．

— 370 —

(*a*) He was seriously ill **at one time.**
(*b*) Do one thing **at a time.**

〔譯　文〕

（い） 彼は一時危篤であつた。
（ろ） 一度に一つ宛せよ——二兎を追ふ勿れ。

〔解　説〕

(*a*) の "at one time" は "once" と同じく「曾て」「一時」の意であるが，

(*b*) の "at a time" は "at the same time" と同じく「同時に」「一ざきに」の意．尤も (*a*) が (*b*) の意味に用ひられるのも時々見受ける事はある，が大體上の濫に覺えておくがよい．

— 371 —

(*a*) I am **tired with** working.
(*b*) I am **tired of** study.

〔譯　文〕

（い） 私は歩いたので疲れた。
（ろ） 私は勉强が飽きた。

〔解　説〕

(*a*) の "(be) tired with" は「…… の爲めに疲れる」の意であるが，

(*b*) の "(be) tired of" は「……に飽きる」「……がいやになる」の意．(*a*), (*b*) 共に他動詞の場合であるが，自動詞としても用ひられる．例へば：

I never **tire of** reading it.
＝何度讀んでも飽きない．

— 372 —

(*a*) I can **not** thank you **too** much.
(*b*) I can **not** thank you **very** much.

〔譯　文〕

（い） 御禮の申上げ樣もありません。
（ろ） 大して御禮は申上げられない。

〔解　説〕

(*a*) の樣に "not……too" の形は總じて「……し過ぎ樣としても出來ぬ」「いくら……しても足らぬ」の意である．從つて (*a*) は「いくら御禮を述べてもこれでは御禮を云ひ過ぎるといふ事はあり得ない」「いくら禮を述べても述べ盡せない」「感謝して猶餘りある」の意である．次例を參考：

You **can not** be **too** careful.
＝幾ら注意しても過ぎる事がない。

(*b*) の "not……very" は「大して……でない」「あまり……でない」の意．"too" を「餘り」とばかり譯しつけてゐると (*a*) を (*b*) と同じ樣に考へ易いから注意を要する．

— 373 —

(*a*) This book **treats of** sociology.
(*b*) I **treated with** him for the purchase of land.

〔譯　文〕

（い） 此の本は社會學を論じてある。
（ろ） 私は彼と土地賣買の事で相談した。

〔解　説〕

(*a*) の "treat of" は「(何問題を) 論ずる」「(本に……が) 書

いてある。の意で，他の phrase に換へれば "deal with" である。

(*b*) の 'treat with" は "negotiate with" と同じく「……と掛合ふ、「談判する」「交渉する」などの意である。

— 374 —

(*a*) She **trembled** for fear.
(*b*) He **shivered** with cold.

〔譯　文〕

(い) 彼女は怖ろしく慄えた。
(ろ) 彼は寒くて震えた。

〔解　說〕

(*a*) の "tremble" は同じく「ふるえる」のでも「恐くて」「怒つて」の如く何等かの感情を以てふるえるのである。

(*b*) の "shiver" は「寒くてふるえる」のである。解釋の場合にはどうでよい樣なものの，和文英譯の際にその用法を誤らぬ樣注意を要する。

— 375 —

(*a*) I **trust in** Providence.
(*b*) I **trust on** God.
(*c*) I must **trust to** chance.

〔譯　文〕

(い) 私は神を信じてゐる。

(ろ) 私は神に賴つてゐる。
(は) 私は運を天に任せねばならぬ。

〔解　說〕

(*a*) の "trust in" は "believe in" と同じく「……を信仰する」の意。

(*b*) の "trust on" は "rely on" と同じく「……に依賴する」「……に賴る」の意。

(*c*) の "trust to" は「……に一任する」「……に委せる」の意。

———————

〔V〕&〔W〕

— 376 —

(*a*) The translation **varies from** the original.
(*b*) Customs **vary with** countries.

〔譯　文〕

(い) 譯文は原文と相異してゐる。
(ろ) 風習は國によつて異る。

〔解　說〕

(*a*) の "vary from" は「……と異る」で,
(*b*) の "vary with" は「……次第で異る」の意. "from"; "with" に依つて生ずる意味の相異は丁度 "differ from"; "differ with" の場合と同じである. 此の場合の "with" は "according to" の意である.

— 377 —

(*a*) I **waited for** him for three hours.
(*b*) I want a girl to **wait upon** me.

〔譯　文〕

(い) 私は三時間彼を待つた。
(ろ) 私は給仕女が欲しい。

〔解　說〕

(*a*) の "wait for" は「……を待つ」の意で, 他動詞の "await" に同じ.
(*b*) の "wait upon (*or* on)" は「……に事へる」「……の給仕をする」「……に侍づく」などの意. 尙これには「訪問する」「伴ふ」の意もある. 例へば:

(1) I shall **wait upon** you in person.
=親しく訪問仕るべく候.

(2) May success **wait upon** your efforts!
=御成功を祈る.

— 378 —

(*a*) I **want** some money.
(*b*) He **wants** common sense.
(*c*) Let her **want for** nothing.

〔譯　文〕

(い) 僕は金が欲しい。
(ろ) 彼は常識を缺いてゐる。
(は) 彼女に不自由させるな。

〔解　說〕

(*a*) の "want" は「要る」「欲しい」の意であるが,
(*b*) の "want" は "lack" と同じく「……を缺く」「缺乏する」の意である. 併し此の意味で "want" を使ふのは往々誤解を招くので, 此の意味には通例 "be wanting in" を用ひる. (*b*) を換へれば:

He is *wanting in* common sense.

(*c*) の "want for" は「……に不自由する」の意.

— 379 —

(*a*) My brother **has gone to the war.**

(*b*) The two countries **went to war** with each other.

〔譯　文〕

(い) 兄は出征しました。

(ろ) 兩國は干戈を交へた。

〔解　説〕

(*a*) の "go to war" は「戰爭に行く」「出征する」の意であるが,

(*b*) の "go to war" は「戰爭する」「干戈を交へる」の意.

— 380 —

(*a*) He went to Europe **by way of** Siberia.

(*b*) I will employ him **by way of** experiment.

〔譯　文〕

(い) 彼はシベリアを經て歐洲へ行つた。

(ろ) 私は試しに彼を雇つてみよう。

〔解　説〕

(*a*) の "by way of" は「……を通つて」「……を經て」「……を經由して」の意で, ラテン語の "via" と同意.

(*b*) の "by way of" は「……の方便として」「……旁々」「の爲め」の意. 尙次例を參考:

He uttered something **by way of** apology.

＝云ひ譯の積りで何か口の中で云つた.

— 381 —

(*a*) You must **give way to** your betters.

(*b*) **Make way for** him.

〔譯　文〕

(い) 長上には讓らねばならぬ —— 長い物にはまかれよ。

(ろ) 道を明けて彼を通してやれ。

〔解　説〕

(*a*) の "give way to" は「……に道を讓る」の意から轉じて「……に負ける」「……に一歩讓る」の意に用ひられる. 次例を參考:

Do not **give way** to your feelings.

＝感情に負けてはならぬ.

(*b*) の "make way for" は「道を明けて……を通す」の意. 從つて "Make way for the Prince" と云へば例の「下に, 下に」に當る.

— 382 —

(*a*) **What** is that gentleman?
(*b*) **Who** is that gentleman?

〔譯　文〕

(い) あの人は何者ですか。
(ろ) あの人は誰方ですか。

〔說　解〕

(*a*) の "what" は「身分」「職業」などを問ふに用ひ，
(*b*) の "who" は「名前」を問ふに用ひる．

— 383 —

(*a*) **if** I should fall ill?
(*b*) **What if** I fall ill?

〔譯　文〕

(い) 萬一私が病氣になつたら如何なることやら。
(ろ) 私が病氣になつたとて何でもないではないか。

〔解　說〕

(*a*), (*b*) 共に形は同じだが，
(*a*) の "what if" は "what *would happen* if....." の省略されたもので「もしも.....したらどうなることやら」の意であるに反し，

(*b*) の "what if" は "what *matters* if....." で「.....したからさてどうなるものか（どうでもよい）」の意味である．"if" は "though" の意味に用ひられてゐる．

— 384 —

(*a*) **What** did you give to the beggar?
(*b*) **What** did you give for your new dictionary?

〔譯　文〕

(い) 君はその乞食に何を遣つたか。
(ろ) 君はその辭書に幾ら拂つたか。

〔解　說〕

(*a*) の "what" は普通の「何」の意であるが，
(*b*) の "what" は "how much"（いくら）の意で「金額」を表はす．從つて次の "give" は「拂ふ」の意となる．(*a*), (*b*) の差は前置詞 "to" と "for" で區別するより外ない．

— 385 —

(*a*) **What man** is he?
(*b*) **What a man** he is!

〔譯　文〕

(い) 彼の人は何人ですか。
(ろ) 彼の人はまア何といふ人でせう。

〔解　説〕

(*a*) の "what man" は單に「如何なる人が」で人物如何を尋ねるのであるが，

(*b*) の "what a man" は「まあ何といふ人だらう」で或る場合には「偉い人だ」の意味にもなり，又或る場合には「困つた人」「あきれ返つた人」の意味にもなる．此の時の "what" は感歎疑問詞である．若し雨天の時に "What weather!" と云へば「困つた天氣だ」の意味だし，晴天の時には「何て好い天氣だ」の意味になるのである．

— 386 —

(*a*) **What by** threats, and **what by** entreaties, he finally accomplished his purpose.
(*b*) **What with** teaching, and **what with** writing, my time is wholly taken up.

〔譯　文〕

(い) 脅したり賺したりして遂に目的を遂げた。
(ろ) 授業やら著述やらで寸暇もない。

〔解　説〕

(*a*), (*b*) 共に「～やら……の爲めに」の意に用ひられるが，

(*a*) の "what by……" の方は「手段」「方法」を示すに反し，

(*b*) の "what with……" は「原因」を示す．但し (*a*), (*b*) 共に二度繰返さずに後の "what with"; "what by" を省くことがある。

— 387 —

(*a*) Tell me **when** he comes.
(*b*) Tell me **when** he will come.
(*c*) Tell me **if** he comes.

〔譯　文〕

(い) 彼が來たら知らして呉れ。
(ろ) 彼が何時來るか知らして呉れ。
(は) 彼が若し來たら知らして呉れ。

〔解　説〕

(*a*) は彼が來る事は定まつてゐるが，「來たら知らせよ」の意で "when he comes" は adverbial clause であるが，

(*b*) の "when he will come" は "*the time* when he will come" の略で，「彼の來る時」の意で noun clause である．

(*c*) の "if he comes" は，彼が來るか來ないか分らないが，「若し來たら」の意で，adverbial clause である．(*a*) と (*c*) は兎角混用し勝ちであるから注意を要する．

— 388 —

(*a*) **When did** you go there?
(*b*) **When have** I **told** a lie?

〔譯　文〕

(い) 君は何時其處へ行つたのか。
(ろ) 僕が何時嘘言を吐いたか —— 吐いた覺えはない。

〔解　説〕

過去に關する疑問では "when" は一定時を示すもの故現在完了形と共に用ひられず動詞は必ず過去體を用ふべきであるが，(b) の樣に「何時……したか——そんな事はない」と反語を示す場合に限り現在完了と共に用ひられるのである．だから（　の裏には "I have never told a lie" の意が藏されてゐるのである．

— 389 —

(a) I **wish** you **would** succeed.
(b) I **hope** you **will** succeed.
(c) I **wish** you **may** succeed.

〔譯　文〕

（い）どうか君に成功させたいものだが（餘り見込なし）。
（ろ）君は多分成功するだらう（見込あり）。
（は）君の成功を祈る。

〔解　説〕

(a) の "I wish～would" は「（餘り見込はないが）……すればよいと希ふ」の意であり，
(b) の "I hope you will" は「多分……するだらう」の意であり．
(c) の "I wish～may" は「……せん事を神に祈る」の意である．

— 390 —

(a) I **wish** you **to** try.
(b) I **wish** you **would** try.

〔譯　文〕

（い）君にやつてみて貰ひ度い。
（ろ）何卒やつてみて下さい。

〔解　説〕

(a) の "I wish～to" は「～に……して貰ひ度い」「～に……させ度い」で「……してみろ」といふ命令に相當するものであり，
(b) の "I wish～would" は "I beg you will" の輕い形で「何卒……して下さい」の意である．前問の "I wish～would" は無意志動詞の場合であるが，今度のは意志動詞の場合である．そして斯樣の相異がある事に注意．

— 391 —

(a) I will finish it **within** a week.
(b) I will finish it **in** a week.

〔譯　文〕

（い）それを一週間以内に終ります。
（ろ）それを一週間で終ります。

〔解　説〕

(*a*) の "within" は「……以内」「……經たぬ中」の意であるが，

(*b*) の "in" は「……經つて」「……(日)で」と時の經過點を示すのである．初學者は場所の前置詞としての "in" (中) から類推して此の場合の "in" を "within" と同樣に考へる傾がある から注意を要する．

THE END.

版權所有

昭和九年九月十八日 印刷
昭和九年九月廿三日 第一版發行

9. 9. 18

著作者　鈴木芳松

發行者　土戸清閑
東京市神田區神保町二ノ一

印刷者　望月清矣
東京市京橋區銀座五ノ二

印刷所　英文通信社印刷所
東京市京橋區銀座五ノ二

單語と成句　定價 ¥1.40

發行所　東京市神田區神保町二ノ一
振替東京一九三四四　尚文堂

受驗者必讀の名參考書

日進英語學校長　佐川春水氏著

英文解釋　聽講と自修

著者の言葉――第一部の「聽講篇」は教室で私の講義を聽くのと略ぼ異りの無い効果を端的に讀者に與へやうとの目的で編まれたものであり、隨つて解說は極めて少數の場合を除いて斯う言ふ種類の書物には先づ以て類のない程に精細を極めた。（中略）教壇上の自分を出來るだけ如實に現はさうと努力したつもりであり、さうしてそれが成功してゐる個所々々では、ちと言葉が大仰のやうであるが、私の魂が打ち込まれてゐると謂つても敢て差支へない位のものである。此の點だけから言つても、よかれあしかれ本書ばかりは「あゝ又例の受驗ものか」と一概に排斥して貰ひ度くないと思ふ。

第二部自修篇に在つては講義は一切しない代りに、各題の下に簡單な註釋が邦語又は英語で設け卷末には別に各題に相當する和譯文を示した。

――三六判・クロース上製・約四〇〇頁・定價一・五〇　送料六錢――

東京市神田區南神保町　尚文堂發行　振替東京一九三四四　電話九段一七五四四

受驗者必讀の名準備書

日進英語學校講師　鈴木芳松先生著

受驗準備　英語文の構成と作文

著者自序――學生諸君の和文英譯の答案を見て何時も強く感ずるのは部分的には相應に書けてゐても全體的に見て文章を成してゐない事である。これは何故かと言ふと、原文構文にのみ因はれ過ぎて英文の構造を顧みないが爲である。和文には和文の構造があり、英文には英文の構造がある。兩者必ずしも一致しないのを强いて一致させようとする處に無理が出來て纏りのつかぬ譯が出來上るのである。本書はかうした弊を矯める爲に著し材料は悉く教場で一度黑板にのせたもので從つて說く所も單に教師本位でなく讀者の立場にかなり同情して說いたつもりである――。

――三六判　總クロース上裝・約三〇〇頁・定價一・〇〇　送料六錢――

東京市神田區神保町二丁目　尚文堂　振替東京一九三四四　電話九段一七五四四

受驗者必讀の名參考書

日進英語學校長　佐川春水氏著

英文法 英作文 誤用より正譯へ

著者の自序「高等學校受驗期にある學生等に、英語殊に文法、作文を教へて見て何時も痛切に感ずる事柄は、彼等の知識の不正確と言ふ事である」――本書は此の缺點を幾分でも補ひ度いと言ふ老婆心から書かれたもので、著者教授の實際より得られた、受驗生の通弊とも言ふべき、誤譯例三百餘題を一題々々短かくして會得に便なるやうに爲し、之に懇切然も解りよい著者一流の講述をされたものである。

先づ「正確」なる受驗の「コツ」を掴まんとする學生諸氏は勿論、一般斯學研究者の珠玉とも言ふべき寶典である。

――三六判・總クロース上製・約四〇〇頁・定價壹圓四〇錢・送料六錢

東京市神田區南神保町　尚文堂發行　振替東京一九三四四　電話九段一七五四四

357
132

終